

年	度	大	小	計
昭和五年	市土木局下水課	件數 一	件數 一	件數 二
		延長 一五〇・四〇	延長 一〇二・八〇	延長 二五〇・二〇
		掘鑿面坪 九・三〇	掘鑿面坪 一	掘鑿面坪 九・二〇

昭和四年	昭和三年		昭和二年	
	市水道局	市土木局下水課	市水道局	市土木局下水課
市水道局	三	三	二	二
市土木局下水課	一	一	一	一
市電氣局	三	三	二	二
東京電燈株式會社	九	四	三	三
東京瓦斯株式會社	二	一〇	二	二
遞信省	一	五	三	二
計	一九	三二	二〇	二〇
	一七二・一五〇	一四〇・六〇〇	九〇・一六〇	三九〇・〇〇〇
	二二七・七九〇	七・一一〇	八四・二八〇	二・九四〇
	三九	三六	一四	八
	五〇〇・二四〇	一五・六四〇	三七・四六〇	一五八・八三〇
	二四七・一〇六	二〇六・二四三	一〇六・一〇四	四八・七〇〇
	二八二・二七三・四一〇	三八七・一七三・九四〇	二〇五・一三六・六二〇	一七九・八三三
	四四八・八六六	七七・八三三	九七・三三四	六〇・六四〇

第五地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第五地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

四〇三

瓦 電			
計	纜		
管 電	遞 東 市		
線	電 電		
路 柱 斯 信 電 電			
八、三九〇・二六 間 三〇九本	三、九八八・四〇 間 七・七〇	六四〇・六一 間 一三〇・一三 間 七・七〇	
一、九〇八・五三 間 二七本	一、二九三・七〇 間 一	一四二・五二 間 二・三三 間	
三、一七三・〇〇 間 一	二、九四七・〇〇 間 一		
一三、一八一・五九 間 五二六本	八、二九二・一〇 間 七・七〇	七三三・二四 間 一三三・四四 間 七・七〇	

電 下 水		
柱 東		
電 水 道		
二、六五一・三〇 間 九八二・二一 間 三〇九本	二、六七一・〇〇 間 二七本	三、一四八・三〇 間 九八二・二一 間 五二六本

第七地區

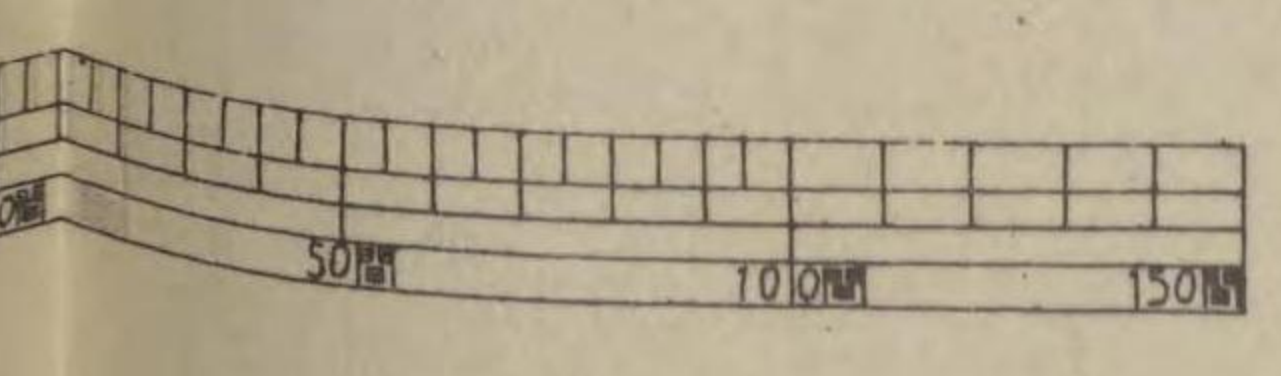
電 氣 水
注 冊
商 標 證
商 標 冊
電 氣 水
注 冊
商 標 證
商 標 冊
電 氣 水
注 冊
商 標 證
商 標 冊

第七地區整理前後概況圖

(前理整)



例		凡	
(29)	補助線	(365)	甲率適用線
(20)	補助線	(200)	乙率適用線
(35%)	圖示以外其他全部	(40%)	借地權利價割合
(III)	分區番號	(I)	分區界
(II)	町界	(I)	地界
(I)	區界	(I)	分區界



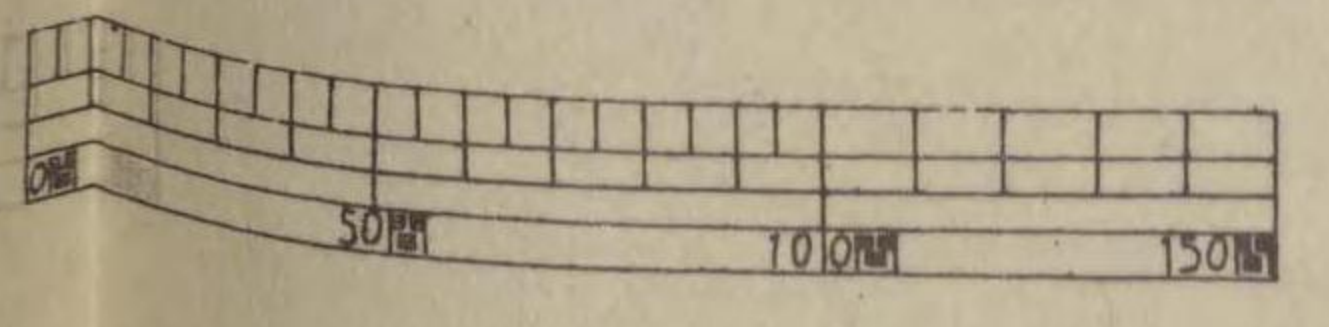
七地區整理前後概況圖

(後 理 整)

(前)



例 凡	
(29)	補助線街路番号
(三)	幹線街路番号
365	乙率適用 價 數
0200	甲率適用 路 幅
35%	圖示以外 其他全部 借地權利割合
40%	分區 番号
(III)	町 界
	地 區 界
	分 區 界



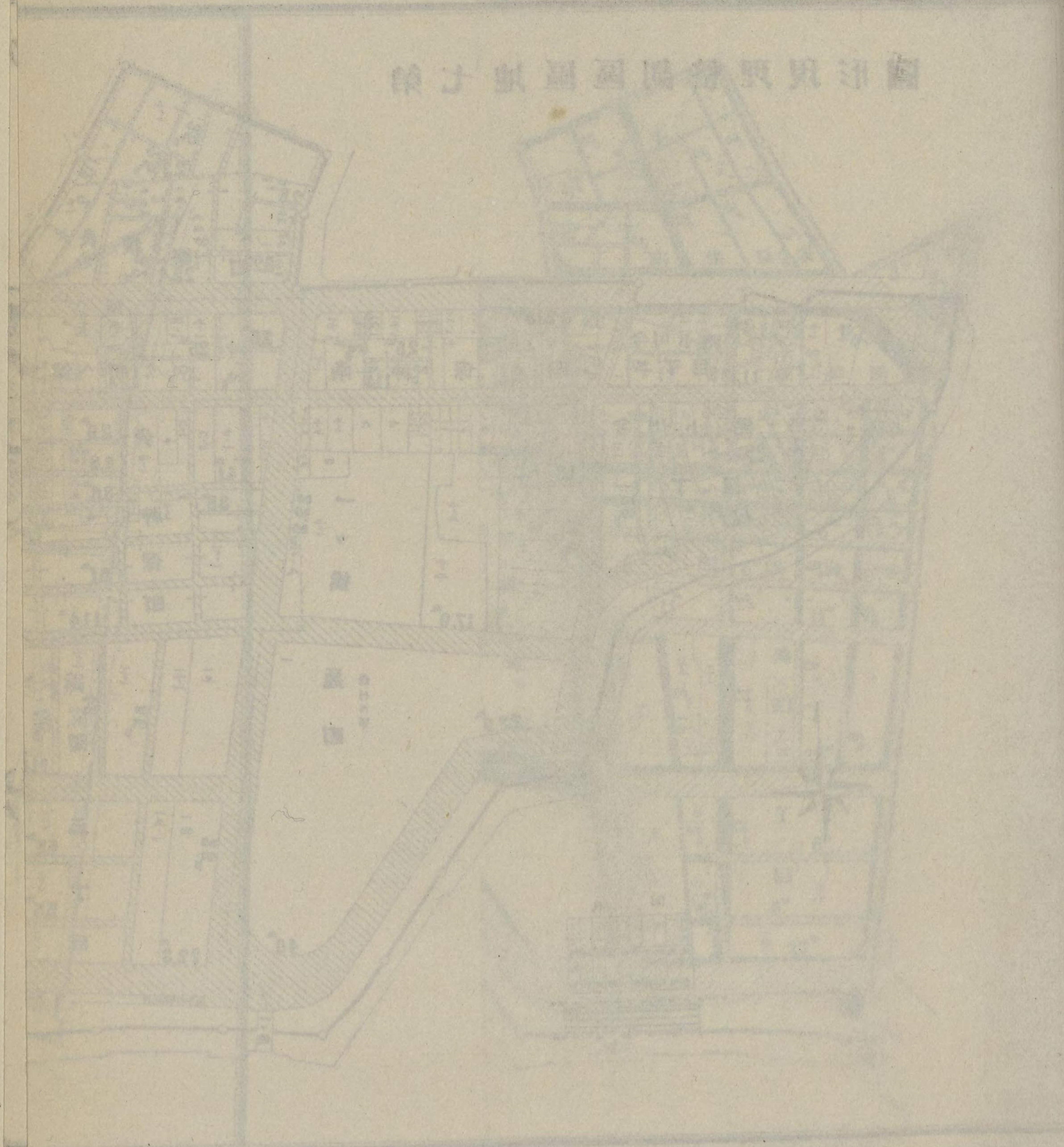
東洋地圖

第七圖 東洋地圖

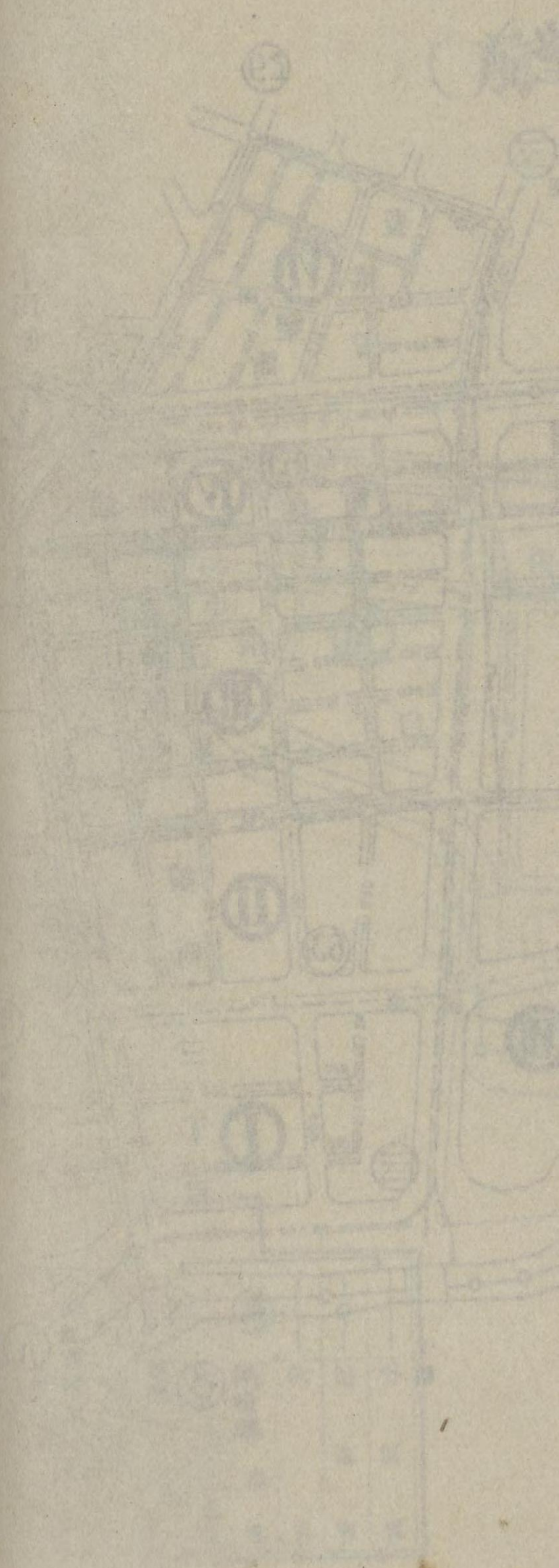
(東洋地圖)

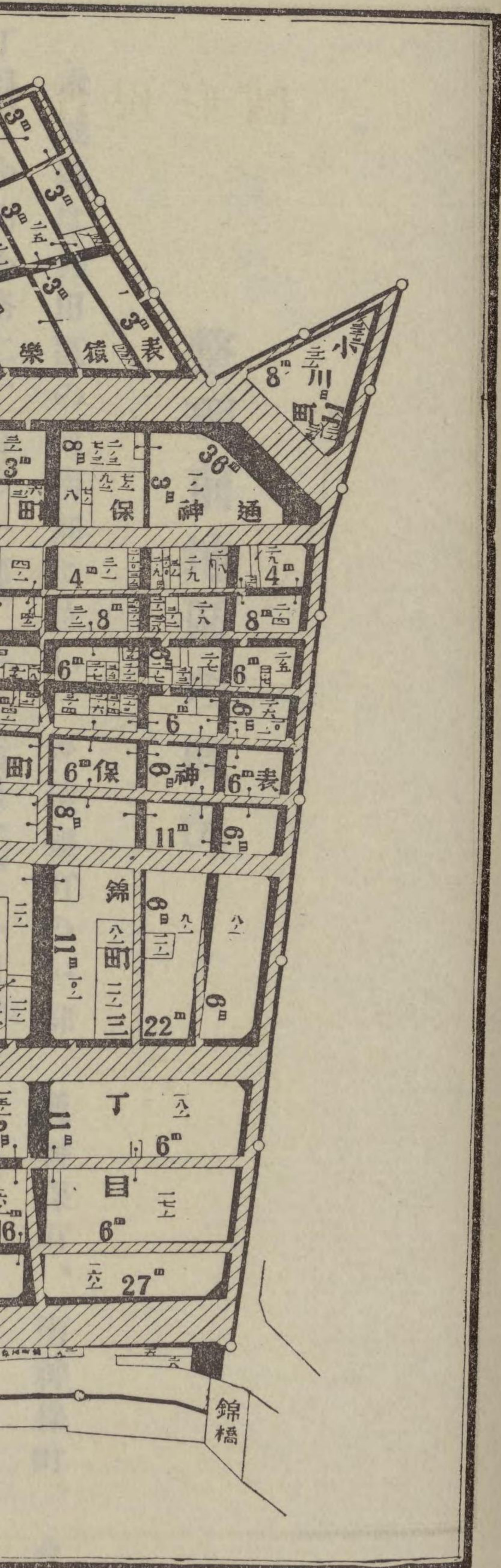


圖說南洋各島國地圖

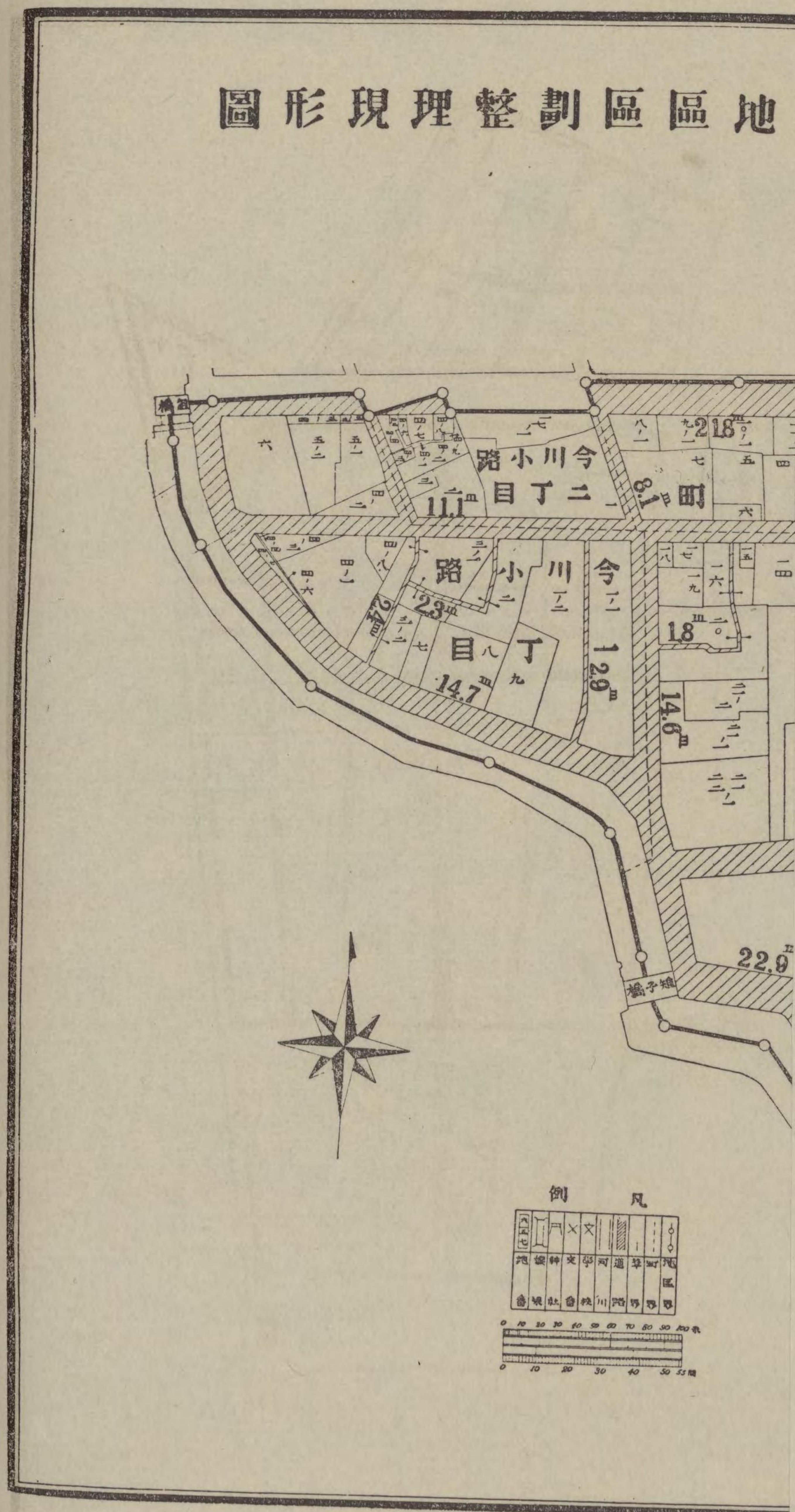


南洋各島國地圖

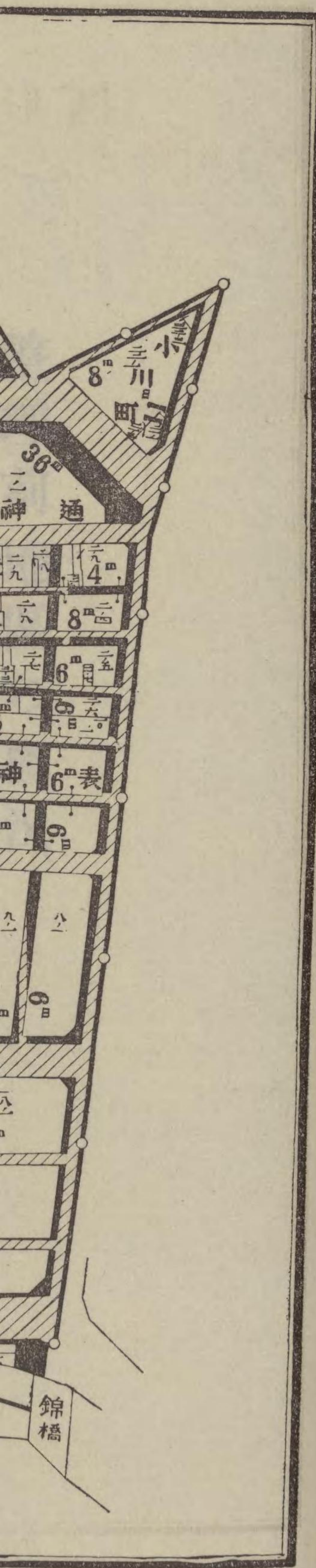




地 區 劃 整 理 現 形 圖

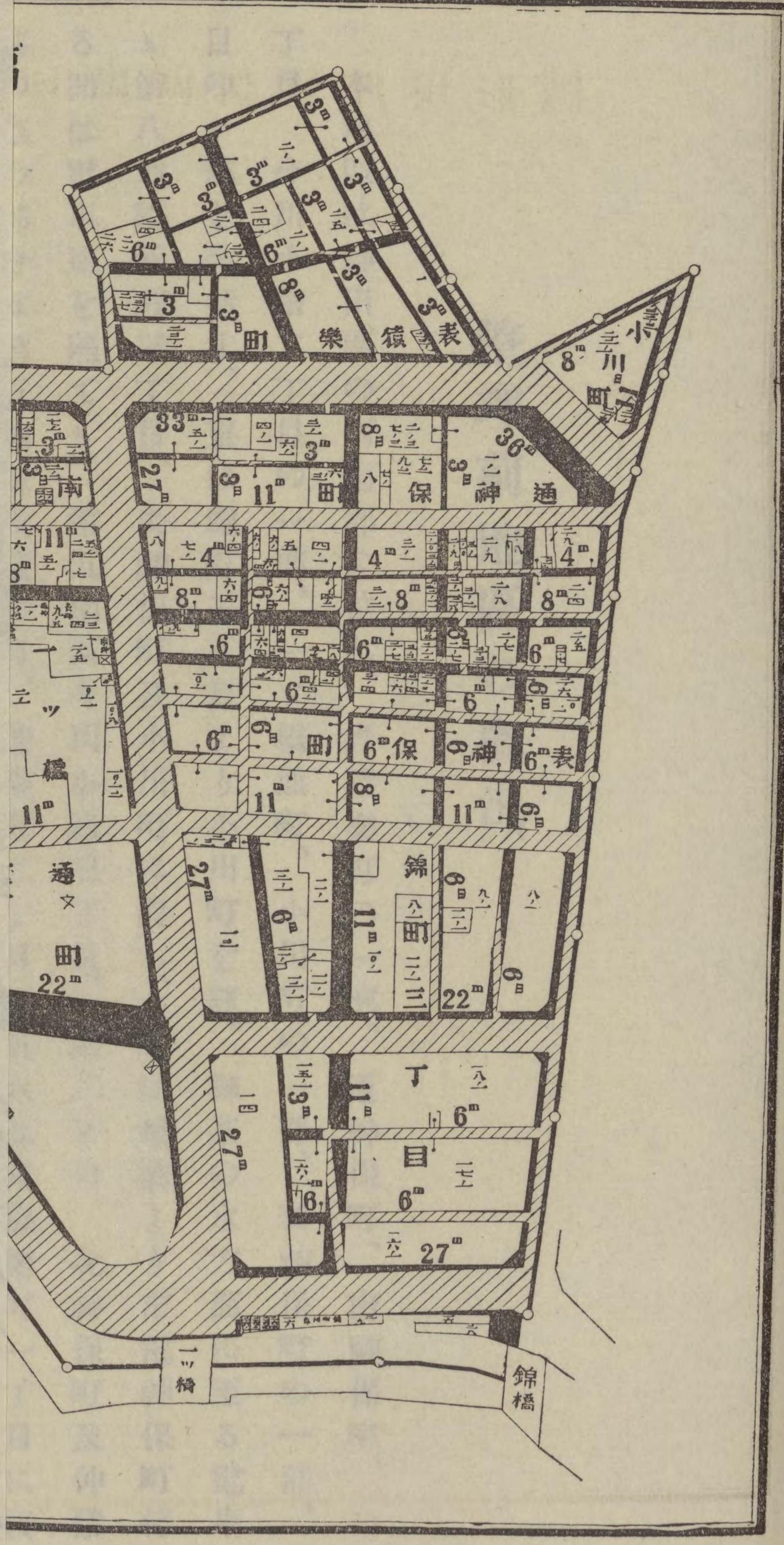


第七地區劃整理現形圖

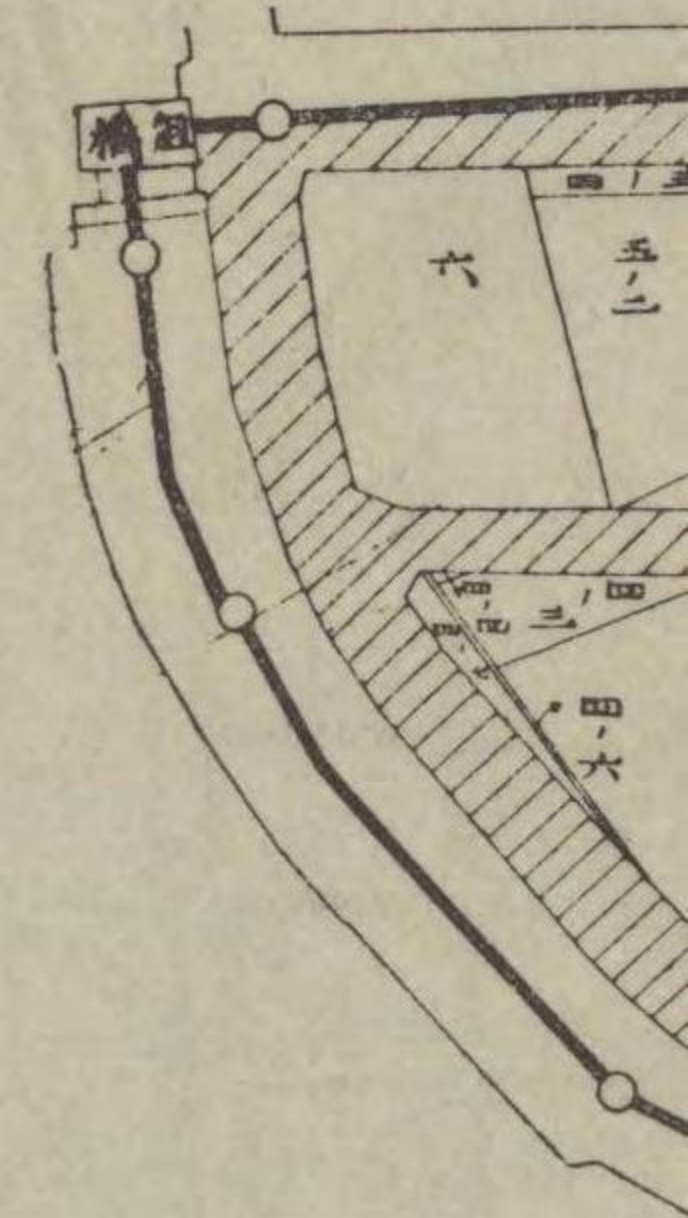


七地區地位圖

第一土區
區土官下町

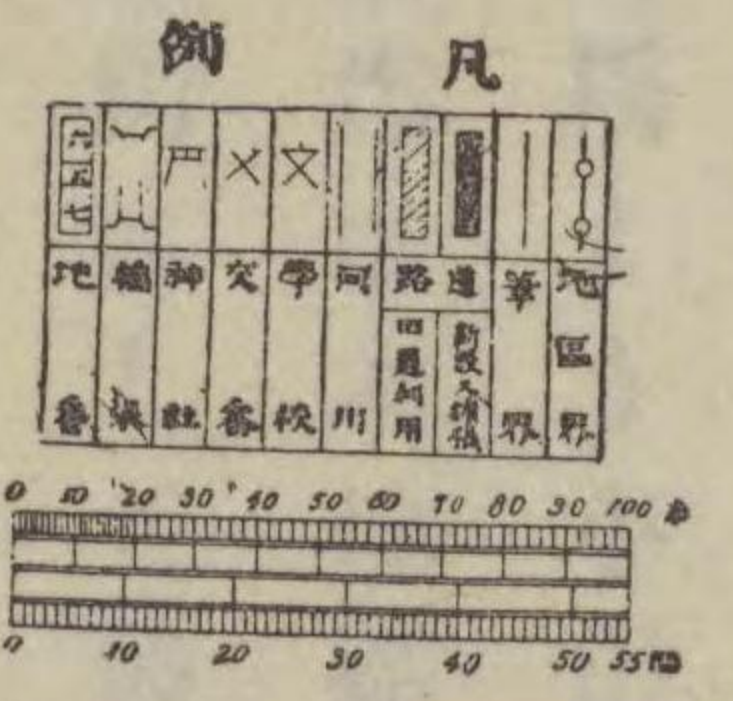


圖形

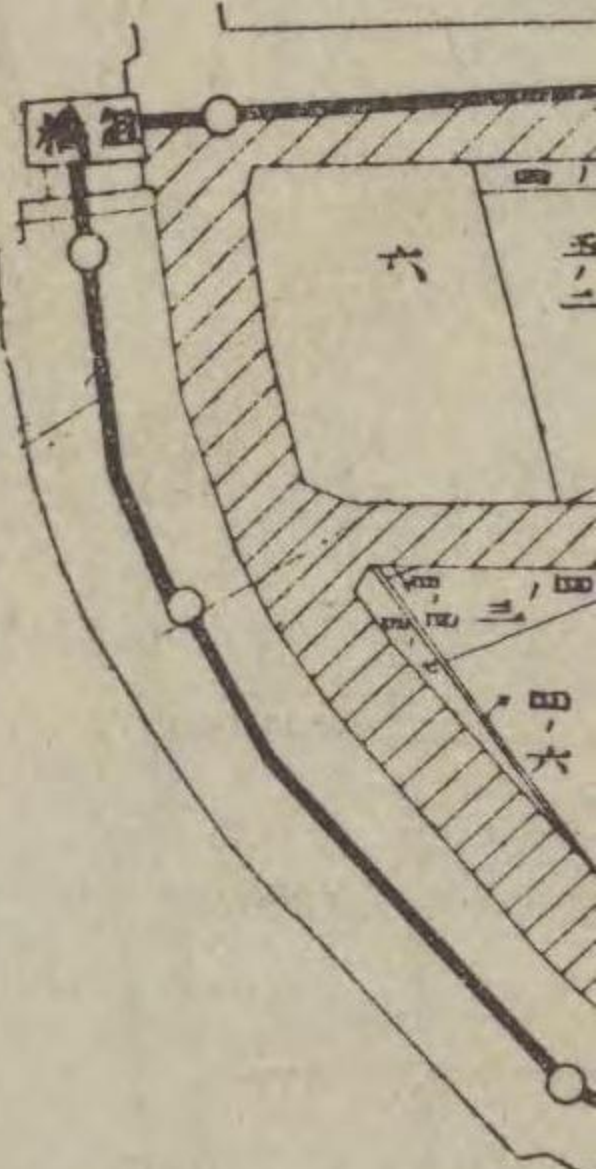


第七地區換地位置決定圖

昭和二年七月二十九日委員會議決



圖形



卷里前也區〇既已



整理前地區の概況

本地區は神田區の西南部に位し、表猿樂町の一部、通神保町、南神保町、今川小路一丁目、今川小路二丁目の一部、一ッ橋通町、小川町の一部、表神保町の一部、錦町三丁目の一部を包括す、東は錦町三丁目より小川町を經、御茶の水方面に至る電車通を隔て、第八地區錦町三丁目、表神保町及小川町に隣し、北は俎橋より市電神保町停留場に至る間は電車通を隔て、第五地區今川小路三丁目、同二丁目、北神保町及仲猿樂町に、其の他の部分は第五地區表猿樂町、猿樂町二丁目及第六地區猿樂町一丁目に接す、西は外濠を隔て、第二地區飯田町一丁目に臨み、南の東部は第三地區麴町區元衛町に、西部は區劃整理地域外たる麴町區飯田町一丁目及竹平町に相對す、地形は北部東西に廣く南部に至るに従ひて狭く地勢平坦なり、本地區の總面積は九萬二千三百十六坪四勺にして之に所在する建物の總棟數は千五百五十六棟なり、而して俎橋より小川町に至る電車通は商舖櫛比し、就中市電神保町停留場より同駿河臺下停留場迄は本地區の要部にして書肆軒を連ね、該電車通の南側に並行する通稱神保町通亦商店街にして殷賑なり、一ッ橋北詰より市電神保町停留場に至る電車通の兩側には東京商科大學、文部省齒科醫師試驗附屬醫院、帝國學士會館、如水會館、救世軍本營等あり、新設錦橋より小川町に至る電

車通には商店多く、其の他は概ね住宅にして其の間下宿、出版、製本等の業を営むもの
介在す、尙前記の外一ツ橋通町には共立女子職業學校、東京市一ツ橋高等小學校、東京
音樂學校神田分教場其の他帝國教育會館等あり。

甲 整 地

第一章 土地區劃整理委員會

第一節 委 員

第一 土地區劃整理委員及同補闕委員

第七地區土地區劃整理委員並同補闕委員の定數は各十六人にして、其の選舉を大正十三年八月五日神田區役所に於て執行したるに何れも左記の適當選せり。

一 土地區劃整理委員

土地所有者の部

小坂 喜徳

江草 重忠

塚谷 喜一

小林 久四郎

葉多野 太兵衛

長谷川 基

田中 良三

岡本 久三郎

借地権者の部

小坂 淺次郎

西川 徳治

伊東 直吉

山崎 遜

飯野 祐吉

井口 吉藏

米田 實

柴藤 卯之吉

二 同上補闕委員

土地所有者の部

松浦 定

小林 岩次郎

殖栗 文造

小泉 愛之助

谷 八造

宮田 儀七

安西 久次郎

村松 平次郎

第七地區 甲 整地

借地権者の部

出雲寶太郎	坂口長忠	中澤郷	片桐鷹重
辻井勇造	高池和七	白井幸助	浅井榮太郎

第二 議長並副議長の選舉及其の異動

大正十三年八月二十七日東京市區劃整理局に招集したる第一回土地區劃整理委員會に於て、假議長山崎遜、議長並副議長選舉の方法を諮りたるに、假議長の指名に決したるを以て假議長は左の如く指名したり。

議長	米田實	副議長	江草重忠
----	-----	-----	------

議長米田實、副議長江草重忠何れも大正十五年六月十四日議長及副議長を辭任したるに因り、同月二十一日假議長山崎遜、議長及副議長の選舉方法を諮りたるに、假議長の指名に決したるを以て左の如く指名したり。

議長	塚谷喜一	副議長	小坂淺次郎
----	------	-----	-------

第三 土地區劃整理委員の異動

土地區劃整理委員は換地處分の結了に至るまで左の如く異動したり。

- 一 土地所有者選出委員葉多野太兵衛大正十五年七月三日死亡したるに因り、同月九日同補闕委員松浦定補充せらる。
- 二 借地権者選出委員米田實大正十五年九月二十日死亡したるに因り、同月二十一日同補闕委員出雲寶太郎補充せらる。
- 三 土地所有者選出委員松浦定昭和三年三月二十八日辭任したるに因り、七月十九日同補闕委員小林

岩次郎補充せらる。

第二節 諮問及答申

- 一 諮問第一號 整理前土地面積決定期日に關する件

寶太郎補充せらる。

三 土地所有者選出委員松浦定昭和三年三月二十八日辭任したるに因り、七月十九日同補闕委員小林

岩次郎補充せらる。

第二節 諮問及答申

一 諮問第一號 整理前土地面積決定期日に關する件

土地區劃整理換地配當の標準たる従前の土地面積は大正十四年五月十日現在の土地臺帳面積に依らむとす、但し四月三十日限東京市役所に出願したるものにして訂正を受けたるときは其の面積に依るものとす。

備考 土地面積訂正を東京市役所に出願せむとするものは、該願書に實測圖を添付し隣地主の同意を得て市役所より調査の際は隣地主の立會を要す、但し臺帳面積との差百分の一以下は之を訂正せず。

右大正十四年三月二十七日諮問

委員會三回開催

大正十四年十月九日修正決議の上答申

議事要綱

本地區委員會は事業の當初より區劃整理制度の根本につき意見を有し、種々論議講究を重ね當局提出の諮問案を審議するに至らざりしが、大正十四年九月頃に至り漸く諒解し審議を進めたり、而して本件は慎重審議の結果土地臺帳面積決定期日を十二月二十日に、面積誤謬訂正出願期日を十二月十日に修正決議せり。

二 諮問第二號 換地位置決定に關する件 (地區全部)

大正十四年三月二十七日諮問

第七地區 甲 整地

委員會十五回 協議會一回開催

大正十四年十二月二十七日より昭和二年七月二十九日迄七回に修正決議の上七月二十九日一括答申

三 諮問第三號 一部換地面積決定に關する件 (錦町河岸地)

大正十四年三月二十七日諮問

大正十四年七月二日修正決議の上答申

四 諮問第四號 整理前路線價指數並土地各筆平均坪當指數に關する件

大正十五年七月七日諮問

委員會四回開催

昭和三年一月二十日假決議

昭和四年七月四日撤回

議事要綱

本案は大正十五年七月七日委員會に提案し、昭和三年一月二十日一部修正を加へ假決議となしたりしが、昭和四年七月四日諮問第十七號土地各筆清算に關する件を提案するに當り、之に包含するものとして原案を撤回せり。

五 諮問第五號 一部換地面積決定に關する件 (一ツ橋通町の一部)

大正十五年十一月十日諮問

同日原案可決の上答申

議事要綱

本案の内一ツ橋通町面積決定に際しては、東京商科大学北側の街路計畫中共立女子職業學校より電

車通迄の幅員十五米なりし其の以東は十一米を十一米に変更し、且同街路より直角に箱根土地株式會社所有地を通じ、幹線第二號に至る間に八米區劃整理街路を新設することに協定し、尙共立女子職業學校敷換地面積を承認すること、せしも、一應學校と協議したる上移轉命令を發令すべきことを何れも條件として原案を可決せり。

本案の内一ツ橋通町面積決定に際しては、東京商科大学北側の街路計畫中共立女子職業學校より電

車通迄の幅員十五米なりし其の以東は十一米を十一米に変更し、且同街路より直角に箱根土地株式會社所有地を通じ、幹線第二號に至る間に八米區劃整理街路を新設することに協定し、尙共立女子職業學校敷換地面積を承認することとせしも、一應學校と協議したる上移轉命令を發令すべきことを何れも條件として原案を可決せり。

六 諮問第六號 一部換地面積決定に關する件

(今川小路一丁目的一部、同二丁目的一部)

大正十五年十二月七日諮問

同日原案可決の上答申

七 諮問第七號 一部換地面積決定に關する件

(小川町の一部、錦町三丁目的一部)

昭和元年十二月二十七日諮問

同日原案可決の上答申

議事要綱

本案中錦町三丁目の一部換地面積決定に際しては、文部省所管齒科醫學學校敷地に對する減歩割合を、附近の宅地と同率に爲すべき條件を附し原案を可決したり。

八 諮問第八號 一部換地面積決定に關する件

(一ツ橋通町の一部、表猿樂町の一部)

昭和二年一月二十日諮問

同日原案可決の上答申

九 諮問第九號 一部換地位置變更並面積決定に關する件

(南神保町の一部、一ツ橋通町の一部、通神保町の一部、表神保町の一部、表猿樂町の一部)

昭和二年三月二十八日諮問

委員會五回開催

昭和二年三月二十八日より昭和二年七月二十九日迄の間に修正決議の上七月二十九日一括答申

一〇 諮問第十號 一部換地位置面積變更並決定に關する件 (南神保町の一部、一ツ橋通町の一部)

昭和二年六月七日諮問

同日原案可決の上答申

一一 諮問第十一號 一部換地位置並面積變更に關する件 (表猿樂町の一部、今川小路一丁目の一部、表神保町の一部、通神保町の一部、南神保町の一部)

昭和二年十一月二十二日諮問

同日原案可決の上答申

一二 諮問第十二號 一部換地位置並面積變更に關する件 (小川町二地先交番、一ツ橋通町一地先六番、今川小路の一部、表神保町の一部)

昭和三年一月二十日諮問

同日原案可決の上答申

一三 諮問第十三號 一部換地位置並面積變更に關する件 (表猿樂町の一部)

昭和三年二月二十七日諮問

同年三月九日原案可決の上答申

一四 諮問第十四號 一部換地位置並面積變更に關する件 (錦町三丁目の一部、表神保町の一部、通神保町の一部、南神保町の一部、小川町の一部、表猿

樂町の一部、一ツ橋通町の一部、今川小路一丁目の一部、同二丁目の一部)

昭和三年九月二十五日諮問

同日原案可決の上答申

一五 諮問第十五號 一部換地位置並面積變更に關する件 (表神保町の一部、表猿樂町の一部、今川小路二丁目の一部)

昭和三年十二月七日諮問

同日原案可決の上答申

一六 諮問第十六號 一部換地位置並面積變更に關する件 (錦町三丁目の一部、表神保町の一部、表猿樂町の一部、一ツ橋通町の一部、今川小路一丁目

同日原案可決の上答申

一五 諮問第十五號 一部換地位置竝面積變更に関する件

(表神保町の一部、表猿樂町の一部、今川小路二丁目の一部)

昭和三年十二月七日諮問

同日原案可決の上答申

一六 諮問第十六號 一部換地位置竝面積變更に関する件

(錦町三丁目の一部、表神保町の一部、表猿樂町の一部、一ツ橋通町の一部、今川小路一丁目の

一部、同二丁目の一部)

昭和四年七月四日諮問

同日原案可決の上答申

一七 諮問第十七號 土地各筆清算に関する件

昭和四年七月四日諮問

同日原案可決の上答申

一八 諮問第十八號 換地處分に関する件

昭和四年七月十二日諮問

同日原案可決の上答申

一九 諮問第十九號 補償金配當割合に関する件

特別都市計畫法第八條第一項の補償金配當割合を左の通定めむとす。

神田區通神保町六番ノ二、一ツ橋通町八番ノ二、九番の合併、錦町三丁目十番、南神保町四番ノ四の各所有權に對する配當割合は整理前指數相當額とす。

前項以外の土地に對する配當割合は、補償總指數より前項配當額を控除したるものを、特別都市計畫法施行令第二十八條第一項に依る各權利の整理前指數に按分したる率に依るものとす。

右昭和四年七月十二日諮問

同日原案可決の上答申

二〇 諮問第二十號 換地處分に關する諮問に對し整理委員會の答申後土地又は土地に關する權利に變動ある場合の處分方の件

諮問第十八號換地處分に關する諮問に對し、整理委員會の答申後換地處分告示の日迄に於て、土地の分合又は土地に關する權利の得喪變更あるときは、左記に據り換地説明書を變更せむとす。

記

一 土地分合の登記ありたるときは、其の範圍を指定すると共に整理前後の權利指數並清算金額を算出し、以て換地説明書中當該部分を變更す。

二 借地權設定の登記若は届出ありたるとき、又は所有權及借地權の移轉並借地權に付轉貸の登記若は届出ありたるときは、當該權利の範圍を指定すると共に整理前後の權利指數及清算金額を算出し、換地説明書中當該部分を變更す。

三 處分の制限に關する登記ありたるときは、當該權利の換地に付制限を受くべき部分を適當に指定し、換地説明書に之を記載す。

右昭和四年七月十二日諮問

同日原案可決の上答申

第二章 整理前土地の狀況

本地區の總面積は九萬二千三百十六坪四勺にして、内宅地面積六萬二千二百五十四坪七勺、公共用地面積三萬六十一坪九合七勺なり、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は宅地六割七分四厘、公共用地三割二分六厘なり、宅地内借地面積は三萬八千二百八十三坪一合一勺にして、之が宅地面積に對する割合は六割一分五厘なり。

本地區の總面積は九萬二千三百十六坪四勺にして、内宅地面積六萬二千二百五十四坪七勺、公共用地面積三萬六十一坪九合七勺なり、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は宅地六割七分四厘、公共用地三割二分六厘なり、宅地内借地面積は三萬八千二百八十三坪一合一勺にして、之が宅地面積に對する割合は六割一分五厘なり。

本地區に於ける街路及河川分布の状況を述べれば左の如し。

一 主要街路

地區の北部を俎橋より小川町に至る街路は幅員十二間、錦町三丁目第八地區界新設錦橋架設位置より外濠に沿ひ一ツ橋北詰を經、地區の中部を貫通して市電神保町停留場に至る街路は幅員十二間、新設錦橋架設位置より第八地區界を北走して市電駿河臺下停留場に至る街路は幅員八間にして、何れも電車軌道を敷設す。

二 其の他の街路

東京商科大学正門より東する街路は幅員約六間、俎橋より外濠に沿ひ一ツ橋に至る街路は雉子橋に至る間は幅員八間、其の他は十三間、共立女子職業學校角より東京商科大学に沿ひ駿河臺下電車通に至る街路は東京商科大学に沿ふ區間は九間乃至十間、其の他は六間、今川小路一丁目より電車通に並行し、通神保町に至る通稱神保町通は幅員約六間、共立女子職業學校角より今川小路二丁目電車通に至る街路中神保町通迄は幅員八間、其の他は四間半にして、前掲以外の街路は何れも幅員狭少なり。

三 河川

外濠は地區の西部より南部に亘り幅員十二間、深度二尺二寸にして河心を地區界とす。

第三章 計畫の概要

第一節 街路計畫

本地區に於ける特別都市計畫委員會議定の街路左の如し。

第一 幹線街路

第二號線は九段下より須田町方面に至る街路にして、内組橋より表猿樂町附近にて右折する迄は幅員三十三米、在來街路を兩側に擴張し、其の以東は幅員三十六米、在來街路の南側に擴張し、第十三號線は一ツ橋より水道橋方面に至る幅員二十七米の街路にして、在來街路を西側に擴張し、第十四號線は雉子橋より今川小路二丁目と南神保町との間に至り幹線第二號と交叉する幅員二十七米の街路にして、在來街路を兩側に擴張し、第十九號線は雉子橋北側東詰より外濠に沿ひ龍閑橋方面に至る幅員二十七米の街路にして、在來街路の北側に擴張し、第四十九號線は一ツ橋通町に於て雉子橋外幹線第十九號より分岐し、東京商科大學構内を貫通し幹線第十三號及補助線第八號を横斷する幅員二十二米の街路にして、同大學構内は新設、錦町三丁目は在來街路の北側に擴張せり。

前記計畫街路の内第二號線及第十三號線に關し沿道關係各町民より既定計畫の幅員を縮少し、現状維持とせられ度旨陳情あり、其の理由とする所は既定計畫に於て第二號線中組橋より市電神保町停留場に至る間を幅員三十三米、同停留場より須田町に至る間を幅員三十六米、又第十三號線の幅員二十七米と爲せるは何れも街路廣きに失し顧客を減少し、沿道の商業の衰運を招き、且地區の土地減歩にも影響する所大なりと謂ふに在り、土地區劃整理委員會に於ても現状維持を主張し、大正十五年十一月十日前記街路幅員縮少に關し當局に再考を促し、之が決定を見る迄は凡て諮問に應ぜざることを決議せり、調査

の結果、第二號線の一部即ち市電神保町停留場より表猿樂町附近にて右折する迄の既定計畫三十六米を三十三米に縮少するは已むを得ざるものと認め之が變更に決し、其の他は既定計畫の通之を實施するものとすし、本問題を解決せり。

第二 補助線街路

る所大なりと謂ふに在り、土地區劃整理委員會に於ても現状維持を主張し、大正十五年十一月十日前記
 街路幅員縮小に關し當局に再考を促し、之が決定を見る迄は凡て諮問に應ぜざることを決議せり、調査

の結果、第二號線の一部即ち市電神保町停留場より表猿樂町附近にて右折する迄の既定計畫三十六米を
 三十三米に縮小するは已むを得ざるものと認め之が變更に決し、其の他は既定計畫の通之を實施するこ
 ととし、本問題を解決せり。

第二 補助線街路

第八號線は新設錦橋より第八地區界を御茶ノ水橋方面に至る幅員二十二米の街路にして在來電車通の
 兩側に擴張し、第二十九號線は表猿樂町に於て幹線第二號の屈折點より分岐し本地區と第六地區とを界
 する幅員十五米の街路にして在來街路を本地區側に擴張し、第六十三號線は錦町三丁目に於て幹線第四
 十九號より分岐し、北走して通神保町に至り幹線第二號線に合する街路にして、錦町三丁目内は幅員を
 十一米とし新設、其の以北は幅員を八米とし、表神保町は在來街路を擴張し通神保町は新設せり。

第三 區劃整理街路

區劃整理街路は幅員三米、三米六、四米、六米、八米及十一米にして土地の狀況に應じ且幹線及補助
 線の連絡に考慮を拂ひ新設、擴張を爲し又は舊道を利用せり。

以上述べたる幹線、補助線並區劃整理街路の幅員、延長及面積を表示すれば左の如し。

整理後街路幅員延長面積調

區分	番號	幅員	延長	面積	摘要
幹線	二	三六・〇〇 ^米	七六・九 ^米	六、六七・四〇 ^坪	一部地區界
	一三	二七・〇〇	五七・九六	三、九〇・六七	
	一四	二七・〇〇	二二・二五	一、七三・二二	

第七地區 甲 整地

合	區區整理線	補助線	
	計	計	計
		壹元八	四元
計	三・〇〇 三・六〇 四・〇〇 六・〇〇 八・〇〇 一一・〇〇	八・〇〇 一一・〇〇 一五・〇〇 三三・〇〇	三三・〇〇 二七・〇〇
合	一三、七〇・六六	一、二四〇・六六	二、四四六・四
	九、〇〇・三〇 五、二七八・〇二 三〇・八三 一七四・〇九	五五二・三四 一七八・〇九 五〇・三四	六〇〇・四 三〇・一八
	一、八九二・九三 一、七〇・九	一、四〇・六六	二、四四六・四
	一、二二・二元 一、七〇・二六	一、二四〇・六六	二、四四六・四
	二、五三・八五 三、四五・七九	二、二七三・六六	五、六四・三五
	三、八三・〇二 六二・六七	一、四八〇・二七	二、二二・六三
	四、七八・八〇 一三、八九六・四一	三八四・〇四 八〇八・七五	一九、六八・三六
	三、二四七・六三	同	
	一部地區界	地區界	

第二節 換地設計

換地位置決定に關する件は大正十四年三月二十七日土地區劃整理委員會に附議し、同年十二月二十七日より昭和二年七月二十九日に至る間七回に修正決議せしむ、其の後數回に亘り一部換地位置變更案を提出し昭和四年七月四日議了せり、換地面積決定に關する件は錦町河岸地の分を大正十四年三月二十七日同委員會に附議し、同年七月二日修正決議せり、其の後數回に分ちて提案し、其の都度決議し昭和四

換地位置決定に關する件は大正十四年三月二十七日土地區劃整理委員會に附議し、同年十二月二十七日より昭和二年七月二十九日に至る間七回に修正決議せしも、其の後數回に亘り一部換地位置變更案を提出し昭和四年七月四日議了せり、換地面積決定に關する件は錦町河岸地の分を大正十四年三月二十七日同委員會に附議し、同年七月二日修正決議せり、其の後數回に分ちて提案し、其の都度決議し昭和四年七月四日全部議了せり。

前記の諮問案審議中本建築申請に對し委員會の意見を求め之を承認したるものあり、即ち大正十四年六月二日在日本救世軍財團より救世軍本建築の申請ありたるを以て、同年十月九日其の位置に關し土地區劃整理委員會の意見を求めたり、該申請は舊位置内に在りて減歩關係を考慮し設計したるものなり、然るに委員會は町會と熟議の必要ありと稱し之を留保し、大正十五年六月十四日再び委員會に於て論議せられしも、委員會の意嚮は隣接地の換地位置未決定なるに獨り救世軍財團のみを議するの必要なとし再び之を留保せり、然るに救世軍財團に於てはブース大將來朝の日切迫し本建築を急ぎたるを以て、同年八月五日委員會は已むなく、救世軍財團本營敷地の減歩率を一割七分とするの條件を附して遂に之を承認せり。

尙大正十四年六月二日神田區錦町三丁目十三番學士會館より本建築の申請ありたるを以て、十月九日之が位置に關し土地區劃整理委員會の意見を求めたり、該申請は其の敷地を當局原案の豫定換地とし之に建築せむとするものなりしが、委員會は未だ換地位置の決定を見ざる際なるを以て、建築敷地舊位置以内なれば支障なきも、其の以外に跨る敷地は買収するに非ざれば承認し難しと主張せり、仍て學士會に於ては已むを得ず建築設計を舊位置内に變更し、大正十五年五月七日再び提出したるを以て、更に意見を求めたるに、同年六月十四日土地區劃整理委員會に於て何等の異議なく之を承認せり。

換地設計に因る宅地面積五萬二千四百二十七坪九合三勺、公共用地面積三萬九千八百八十八坪一合一

第七地區 甲 整地

四二〇

勾にして、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は宅地五割六分八厘、公共用地四割三分二厘なり、宅地の内借地面積は三萬三千二百二十八坪五合にして、其の宅地面積に對する割合は六割三分四厘なり、而して宅地が公共用地となりたる面積一萬二千二百三十七坪三合五勺、公共用地が宅地となりたる面積二千四百一十一坪二合一勺、其の差引潰地面積九千八百二十六坪一合四勺、減歩率一割五分七厘なり。

整理前後に於ける土地の狀況を表示すれば左の如し。

整理前後土地面積調

區分	整理前		整理後		宅地面積 の總面積 に對する 割合	公共用地 面積の總 面積に對 する割合	潰地面積	潰地面積の 整理前宅地 面積に對す る割合	潰地面積の 整理前宅地 面積の割を 控除し、補 償面積
	宅地面積	借地面積	宅地面積	借地面積					
總面積	九二、三六・〇四 ^坪		三三、二六・五〇		〇・六七四	〇・三三六	九、八六・一四 ^坪	〇・一五七八三九三	三、六〇・七四 ^坪
宅地面積	六二、二五四・〇七 ^坪	三〇、〇六一・九七 ^坪	三九、八八・二二	〇・六三五	〇・六三五	〇・四三三	〇・一五七八三九三	三、六〇・七四 ^坪	
借地面積	三〇、一〇六・九七 ^坪	三三、二六・五〇	〇・六三五	〇・六三五	〇・三三六	〇・四三三	〇・一五七八三九三	三、六〇・七四 ^坪	

備考 面積は實測面積なり、但し整理前借地面積は申告に據る。

宅地面積内譯

區分	整理前	整理後
民有地	四八、二六・二七 ^坪	二、九四三・五二 ^坪
國有地	二、九四三・五二 ^坪	二、〇四八・二六 ^坪
公有地	二、〇四八・二六 ^坪	六、二四四・〇七 ^坪
計	六、二四四・〇七 ^坪	六、二四四・〇七 ^坪

備考 面積は實測面積なり、但し整理前借地面積は申告に據る。

宅地面積内譯

整理前	整理後	區分民有地	國有地	公有地	計
四八、二六・二七	四〇、九三・六一		一一、九四三・五三	二、〇四八・二六	六三、二四〇・〇七
			九、五九七・五四	一、八九三・七七	五三、四三七・九三

整理前公共用地面積内譯

國有	公有	民有	小計	河川運河	公園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計
一四、九四・六四	四、八四・五二	四、三七・〇四	二四、一四三・二〇	四、五九〇・七一	—	七〇・二三	—	一一、三六・八五	三〇、〇六・九七

整理後公共用地面積内譯

幹線	補助線	區整理線劃	小計	河川運河	公園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計
一九、六七・二六	二、六七・九六	一一、八九・六四	三三、一四七・八六	—	—	四九・七七	—	—	三三、八八・二二

備考 各公共用地の整理前面積に「宅地が公共用地となりたる面積」を加へ、「公共用地が宅地となりたる面積」を減ずるも整理後面積に合致せざるは、公共用地間の用途變更を爲したるものあるに依る。

第七地區 甲 整地

第七地區 甲 整地

宅地が公共用地となりたる面積

幹線	補助線	整理線	小計	河川運河	公園	共同物揚場	堤塘溝渠	合計
五、一七、一六 ^坪	一、〇一、三三 ^坪	五、八五、〇五 ^坪	二、二八、七六 ^坪	—	—	四、七 ^坪	—	二、二七、三三 ^坪

公共用地が宅地となりたる面積

國有	公有	民有	小計	河川運河	公園	共同物揚場	堤塘溝渠	合計
三、八五、五 ^坪	三、七〇 ^坪	一、八六、七二 ^坪	二、三〇、四 ^坪	—	—	五、六 ^坪	—	二、四二、三 ^坪

換地設計上地區を整理前十三ブロック、整理後十八ブロックに分ち處理せしも對照の便宜上九分區とせり、其の區域及分區別整理前後宅地潰地面積を表示すれば左の如し。

分區別區域調

分區番號	區	域	分區番號	區	域
一	神田區 錦町三丁目河岸		二	錦町三丁目	

三	同	表神保町の一部	七	同	一ツ橋通町の一部
四	同	通神保町	八	同	南神保町
五	同	小川町の一部	九	同	今川小路一丁目及二丁目の一部
六	同	表袋橋町の一部			

分區番號	一	二
區	神田區 錦町三丁目 河岸	錦町三丁目 の一部
域		
分區番號		
區		
域		

分區番號	六	五	四	三
整理前面積	同	同	同	同
整理後面積	同	同	同	同
潰地面積	同	同	同	同
減歩率	同	同	同	同

分區別整理前後宅地潰地面積調

分區番號	計	九	八	七	六	五	四	三	二	一
整理前面積	六、二四〇・七	八、五七・六	三、九三・〇	八、七五・〇	六、〇七・〇	八、五〇・九	三、九〇・七	九、二一・六	五、二四・〇	五、七四・二
整理後面積	五、三四七・三	七、二九・一	一、六九・九	七、三三・八	四、九〇・九	七、九一・三	三、〇二・四	七、八九・九	四、八二・七	四、八五・五
潰地面積	九、八六・四	一、二九・五	二、二四・〇	一、六三・七	一、一〇・七	九、五・六	八、八・四	一、三二・四	四、〇一・九	九、二・七
減歩率	〇・二五	〇・二三	〇・二六	〇・二八	〇・二八	〇・二六	〇・二四	〇・二五	〇・二七	〇・二五

第七地區 甲 整地

第七地區 甲 整理地

四二四

斯の如く分區間の減歩率區々にして其の最高は第四號分區の二割一分四厘、其の最低は第二號分區の七分七厘、地區平均減歩率一割五分八厘となりしも本地區委員會に於ては、將來土地補償金の交付を考慮して土地買収を希望せず、然るに換地設計上已むなく潰地充當用として宅地三百六十六坪三合五勺を買収し、其の他は成るべく分區間の移出入に依りて減歩の調節を圖るに努め、五百六十八坪二合四勺の移出入を行ひたり、分區間の移出入關係を表示すれば左の如し。

分區間移出入面積調

移出分區	移入分區	二	八	計
	計	九	六	四
計	七・七三	七・七三	九四・二〇	九四・二〇
	三九六・三	四九〇・五	七・七三	七・七三
	五八・二四		三九六・三	三九六・三

以上述べたる如く一部潰地充當用地の買収と分區間の移出入を爲したる結果、各分區の減歩率は最高第七號分區の一割八分六厘、其の最低第二號分區の九分一厘となれり、而して本地區に於ける實際潰地面積は尙九千四百五十九坪七合九勺にして、其の減歩率一割五分三厘を示せり、左に分區別買収面積、移出入面積、實際潰地面積及減歩率を表示すべし。

分區別買収移出入實際潰地面積調

分區番號	整理前面積	買収面積	移出面積	移入面積	差引面積	整理後面積	實際潰地面積	減歩率
一	五、七四・二六 ^坪	三〇・〇〇 ^坪	—	七・七三 ^坪	五、七〇・二六 ^坪	四、八二・二七 ^坪	八七・七〇 ^坪	〇・二五三
二	五、二四・〇八	—	—	—	五、二四・〇八	四、八二・二七 ^坪	四七九・六四	〇・〇九一

移出面積
實際潰地面積
分區別買收移出入實際潰地面積調

分區番號	整理前面積	買收面積	移出面積	移入面積	差引面積	整理後面積	實際潰地面積	減歩率
一	五,七四・二六 ^坪	三四・〇〇 ^坪			五,七三〇・二六 ^坪	四,八五・五 ^坪	八七・七〇 ^坪	〇・一五三
二	五,二四・〇八			七・七三 ^坪	五,一九・八一	四,八二・二七	四七九・六四	〇・〇九一
三	九,二一・一六				九,二一一・一六	七,八九・九二	一,三三・二四	〇・一四五
四	三,九〇・六七	一四・九〇	九四・二〇		三,六四・五七	三,〇八・二四	六〇二・三三	〇・一六三
五	八五・〇九				八五・〇九	七九・一三	九五・九六	〇・一七六
六	六,〇七・〇四		七・七三		五,九五・三三	四,九〇・九七	一,〇四・三四	〇・一七一
七	八,七五・〇四				八,七五・〇四	七,一三・八七	一,六三・一七	〇・一八六
八	一三,九一・〇七	一九〇・四五		四九〇・五	一四,二三・一三	一一,六九・九七	二,五四・一六	〇・一七九
九	八,五六・六六		三九・三三		八,七七・三五	七,二九・二〇	八七三・三五	〇・一〇七
計	六二,三四・〇七	三六・三五	五六・三四	五六・三四	六二,八七・七三	五三,四七・九三	九,四五・九	〇・一五三

備考

一 差引面積は整理前面積より買收地面積及移出面積を控除し移入面積を附加したる後の面積なり。
二 實際潰地面積は差引面積より整理後面積を控除したるものなり。

第四章 土地の整理

第七地區 甲 整地

第四章 土地の評價

第一節 整理前土地の評價

整理前路線價指數並土地各筆坪當指數に關する件は大正十五年七月七日土地區劃整理委員會に附議せり、而して整理前路線價指數は昭和三年一月二十日修正の上假決議を爲し、之を基礎として算定したる土地各筆清算案を昭和四年五月二十一日委員協議會に内示したり、偶々本地區と第八地區との地區界をなす路線價は同一路線なるに拘はらず均衡を失するを發見したるを以て、再三協議會に於て審議したる結果、一部修正を加へ之を當局の原案として昭和四年七月四日土地各筆清算に關する件を委員會に附議し、同時に曩に提出したる整理前路線價指數並土地各筆坪當指數に關する件を撤回し、委員會は即日原案の通可決したり。

本地區整理前の土地評價には路線價に對する奥行價格百分率中甲及乙の兩率を適用したり、即ち俎橋より市電駿河臺下停留場に至る電車通、新設錦橋より一ツ橋北側を経て表神保町に至る電車通、新設錦橋より市電駿河臺下停留場を経て第六地區界に至る電車通及通稱神保町通を何れも甲率、其の他の路線を乙率と定めたり、其の路線價指數は土地の狀況に依り三百個乃至千個と評定せり、即ち通稱神保町通の東部を最高千個、一ツ橋北側より外濠に沿ひ共立女子職業學校に至る路線を最低三百個とせり、路線價指數に基き算出せる土地各筆平均坪當指數の最高は千二十九個、表猿樂町二十六番にして、最低は二百十八個、一ツ橋通町二番ノ一外十筆なり。

宅地全筆の總指數は土地總指數二千八百九十一萬五千四百三十七個より私道指數八萬七千六百二十六個を控除したる二千八百八十二萬七千八百一十一個にして、之を宅地總面積の六萬二千二百五十四坪七勺

にて除したる平均坪當指數は四百六十三個なり。

借地權利價割合は市有河岸地を五割五分、其の他の宅地を三割乃至四割と定めたり。

第二節 整理後土地の評價

百十八個、一ツ橋通町二番ノ一外十筆なり。
宅地全筆の總指數は土地總指數二千八百九十一萬五千四百三十七個より私道指數八萬七千六百二十六個を控除したる二千八百八十二萬七千八百一十一個にして、之を宅地總面積の六萬二千二百五十四坪七勺

にて除したる平均坪當指數は四百六十三個なり。

借地權利價割合は市有河岸地を五割五分、其の他の宅地を三割乃至四割と定めたり。

第二節 整理後土地の評價

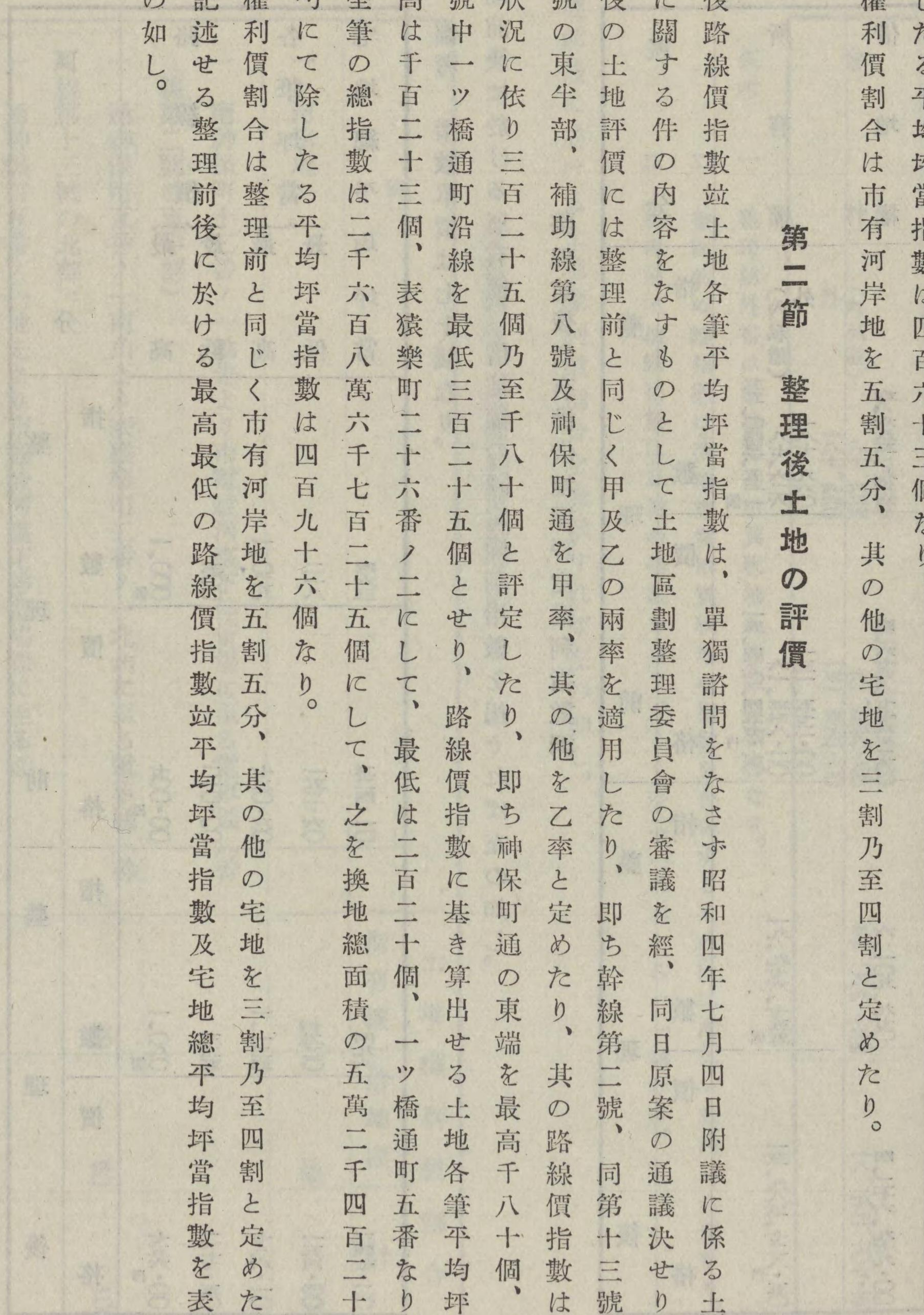
整理後路線價指數並土地各筆平均坪當指數は、單獨諮問をなさず昭和四年七月四日附議に係る土地各筆清算に關する件の内容をなすものとして土地區劃整理委員會の審議を経、同日原案の通議決せり。

整理後の土地評價には整理前と同じく甲及乙の兩率を適用したり、即ち幹線第二號、同第十三號、同第十九號の東半部、補助線第八號及神保町通を甲率、其の他を乙率と定めたり、其の路線價指數は土地の整理狀況に依り三百二十五個乃至千八十個と評定したり、即ち神保町通の東端を最高千八十個、幹線第十九號中一ツ橋通町沿線を最低三百二十五個とせり、路線價指數に基き算出せる土地各筆平均坪當指數の最高は千百二十三個、表猿樂町二十六番ノ二にして、最低は二百二十個、一ツ橋通町五番なり。

換地全筆の總指數は二千六百八萬六千七百二十五個にして、之を換地總面積の五萬二千四百二十七坪九合三勺にて除したる平均坪當指數は四百九十六個なり。

借地權利價割合は整理前と同じく市有河岸地を五割五分、其の他の宅地を三割乃至四割と定めたり。

以上記述せる整理前後に於ける最高最低の路線價指數並平均坪當指數及宅地總平均坪當指數を表示すれば左の如し。



整理前後路線價各筆坪當宅地總平均坪當指數調

區分	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格
路線價	1,000 <small>圓</small>	700 <small>圓</small>	1,000 <small>圓</small>	756 <small>圓</small>
各筆坪當	最高	300	35	27.50
	最低	10元	1.23	76.10
宅地總平均坪當	最高	28	20	15.00
	最低	43	46	37.20

備考 指數單價は七十錢なり。

又整理前後に於ける所有權、借地權の評定權利指數を掲ぐれば左の如し。

整理前後所有權借地權評定權利指數調

區分	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格
所有權	13,043.51 <small>圓</small>	15,430,477 <small>圓</small>	19,976.75 <small>圓</small>	23,983,78.5 <small>圓</small>
借地權	外 (内私道)	187,960	13,511.00	4,176,970 <small>圓</small>
	外	6,683,966	4,678,76.20	6,109,970

合計	整理前	整理後	
外 (内私道)	187,960	13,511.00	6,109,970
外	6,683,966	4,678,76.20	6,109,970
合計	6,871,926	9,189,76.20	12,219,940

備考 一 整理前後外書は潰地充當用買收地の指數及價格なり。

借地権	六、六三、九六	四、六九、七五・二〇	六、〇九、九七〇	四、二七、九九・〇〇
-----	---------	------------	----------	------------

合 計	三六、三七、四七七 （内私道） 八七、六六六 外 一八七、九六〇	二〇、一〇九、三三・〇 六、三六、三六・〇 一三、五五、〇〇	三六、〇八、七五	一八、三〇、七五・〇
-----	---	--------------------------------------	----------	------------

備考 一 整理前外書は潰地充當用買收地の指數及價格なり。
 二 整理前の總指數は潰地充當用買收地の指數を包含するものは二八、九一五、四三七個なり。
 三 整理前宅地總指數は私道の指數を含まざるもの二八、八二七、八一一個なり。

尙整理前後に於ける土地權利價割合を表示すれば左の如し。

整理前後土地權利價割合調

區 域	土地權利價割合		
	所有權	借地權	計
一 河岸地	四五	五	100
一 南神保町十二番ノ一地先より市電駿河臺下停留場に至る電車通（幹線第二號の東半部）			
一 通神保町五番ノ一南角より表猿樂町二番ノ一北角に至る電車通（幹線第十三號の北部）	六〇	四〇	100
二 通神保町五番ノ一地先より市電駿河臺下停留場際に至る通			

一 其の他	空	三	100
一 錦橋際より小川町三十二番ノ三北角に至る電車通(補助線第八號)	空	三	100
一 俎橋より南神保町十二番ノ一地先に至る電車通(幹線第二號の西部)	空	三	100

備考 區域欄の括弧内は整理後の街路別を示す。

第五章 換地處分

第一節 換地處分案の決定

土地各筆清算に關する件は昭和四年七月四日土地區劃整理委員會に附議し即日原案の通可決、換地處分に關する件及補償金配當割合決定に關する件は昭和四年七月十二日同委員會に附議し即日原案の通可決したるを以て、翌十三日内務大臣に本地區の土地區劃整理設計、換地處分及土地補償金の配當方法決定に關する認可申請を爲し、同月十八日認可、同日内務省告示第九十七號を以て換地處分認可の告示あり依て即日東京市告示第三百十九號を以て右換地處分の件認可ありたるに付、土地補償金受領權利者は七月十八日より同月二十二日迄に東京市復興事業局第二出張所に申告書を提出すべき旨を告示せり。而して本地區に於て換地處分を爲したる土地は所有地整理前二百三十筆、整理後二百九十筆、借地整理前九百二十八件、整理後九百二十一件なり、土地權利者は所有權者整理前九十八人、整理後八十八人、借

地權者整理前後共六百九十人なり。

土地各筆清算に際しては整理前清算土地評定權利指數二千八百七十二萬七千四百七十七個を以て、換地の評定權利指數二千六百八萬六千七百二十五個を除したる比率〇・九〇八〇七五七を整理前の各筆權利指數に乗じて整理前の比例權利指數を算出せり。

而して本地區に於て換地處分を爲したる土地は所有地整理前二百三十筆、整理後二百九十筆、借地整理前九百二十八件、整理後九百二十一件なり、土地権利者は所有権者整理前九十人、整理後八十八人、借

地権者整理前後共六百九十人なり。

土地各筆清算に際しては整理前清算土地評定権利指數二千八百七十二萬七千四百七十七個を以て、換地の評定権利指數二千六百八萬六千七百二十五個を除したる比率〇・九〇八〇七五七を整理前の各筆權利指數に乗じて整理前の比例権利指數を算出せり。

一 清算を爲したるもの

換地説明書別	從前の土地		換地		計算上の清算			清算			
	面積	積	面積	積	評定権利指數	權利價格	徵收	交付	徵收		
甲	六五〇三八〇二坪	一、八三四九九坪	五二四二七九三坪	一、五六二六七坪	二〇、三五八一九個	二〇、三五八一九坪	三三、三四一四〇円	二二、五五五九〇円	九八、七九九四〇円	二〇、三、九三九〇円	三三、九七八八〇円
乙	—	三、六四八、二二	—	三、六五八、三三	四、〇〇九、四四二個	四、〇〇九、四四二坪	一九、八〇八五〇円	一〇〇、七六四六〇円	—	一〇、三、七六六〇円	八四、三五二七〇円
計	六五〇三八〇二坪	五、四九三、〇一坪	五二四二七九三坪	五、二二六、六一坪	二四、三六八〇九個	二四、三六八〇九坪	五三、一四九九〇円	一二三、三一九五〇円	九八、七九九四〇円	三〇、七、一七五〇円	四二、三、三五六〇円

備考 一 換地説明書別欄、甲は所有権と所有権者にして借地権を有するもの、借地権との清算を、乙は借地権のみの清算を掲ぐ。

第七地區 甲 整地

- 二 従前の所有地面積は臺帳面積に據り、借地面積は申告面積なり。
- 三 甲借地面積は乙より移記したるものにして、乙借地面積は甲に移記したるものを除きたる面積なり。

二 特別處分を爲したるもの

一 換地を交付せず清算金を交付したるもの

權利者	區町丁目	地番	地目	權利別	面積	指數	價格	摘要
今村 有隣	神田區 表猿樂町	一三ノ三	私設 道路	所有權	三・九四 ^坪	一、九二 ^個	一、四四・七〇 ^円	道路
岡田 義雄	同 表神保町	七ノ二	同	同	四三・三	一、七三	一、二三・一〇	同
同	同	九ノ三	同	同	二・九一	三六	一五九・六〇	同
計	計				四三・三	一、九二	一、三三・七〇	
村松平次郎	神田區 表神保町	六ノ二	私設 道路	同	五〇・二七	二、七二	一、八九・四〇	同
同	同	六ノ五	同	同	六二・五〇	三、六七	二、五四・九〇	同
計	計				一一二・七七	六、三九	四、四六・三〇	
同	神田區 錦町三丁目	八ノ二	私設 道路	同	六二・七	二、〇〇	一、四二・〇〇	道路
同	同	九ノ二	同	同	六二・五	二、〇五	一、四四・五〇	同

同	同	九ノ三	同	同	六三・七五	二、〇八	一、四三・六〇	同
同	同	一〇ノ二	同	同	六三・八四	二、〇〇	一、四三・〇〇	同
同	同	一〇ノ三	同	同	六三・三三	二、〇七	一、四五・〇〇	同

第七地區 甲 整地

阿部 正直		合名會社 安田保善社												
同表神保町	神田區 今川小路一丁目	計	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二ノ一四	一ノ三		一八ノ二	一七ノ二	一六ノ二	一五ノ三	一二ノ二	一一ノ三	一一ノ二	一〇ノ三	一〇ノ二	九ノ三		
同	同		同	同	同	同	同	同	同	同	同	同		
同	同		同	同	同	同	同	同	同	同	同	同		
四五・五八	九四・六七	一、〇九・七	二九・七	二五・一六	二〇・一三	九七・五	八一・四九	八一・二五	六五・三三	六五・二五	六三・八四	六三・七五		
二、六一	三、四九六	三、八四	三、七〇	五、九〇九	三、〇五	二、六八	二、五五	二、五五	二、〇六	二、七三	二、〇五〇	二、〇四八		
一五、一四八・七	二、四七・二〇	三、〇五・八〇	二、六九・〇〇	四、一三・三〇	二、二四・五〇	一、八四・六〇	一、七〇・五〇	一、七三・五〇	一、四五・二〇	一、四二・二〇	一、四五・〇〇	一、四三・六〇		
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同		

四三三

第七地區 甲 整地

吉川 元光	同	二ノ一五	私設道路	同	五・四	二七六	一九三・〇	道路
同	同	三ノ五	同	同	一〇七・五	九、四三	六、五五・〇	同
計	神田區 表神保町	四ノ四	同	同	六八・五	三、三九	二、九七・三	同
永田安次郎	同	二七ノ(2)	宅地	同	三・三	一、三七	九六・九	二三ノ一(13)増歩換地したるに依る
野口敏久	同	四ノ三	同	同	四・六	七二	五〇・四	四ノ一(17)増歩換地したるに依る
後見人 相原 貞晴	同	四ノ六	同	同	一・〇	一三三	九二・四	四ノ一(12)増歩換地したるに依る
阿野田まつ	同	四ノ七	同	同	一・五	一四	一四・八	同
計	同	二六ノ(3)	同	同	二・七	二六	一〇四・一〇	協定による
高橋 義孝	同	二七ノ(3)	同	同	一・九	四六	三六・〇	同
佐藤喜十郎	同	二七ノ(4)	同	同	八・六	三、六四	二、三四・八	二三ノ一(15)増歩換地したるに依る
坂口 長忠	同	四ノ七	同	同	一・〇	一〇	七・〇	同
今川小路二丁目	同	同	同	同	同	同	同	同

四三四

鈴木 庄八

同
同

四ノ六
ノ六(5)

同

同

一・五

一六四

一四・八

四ノ一(10)及(11)を減歩せしめざりしに依る

同
目今川小路二丁
四ノ七
ノ七
(4)
同
同
一〇〇
二〇
七〇〇

合 計	鈴木庄八	
	同	同
計	同	同
	四ノ六 ノ六 (4)	四ノ六 ノ六 (5)
	同	同
所有權 賃借權	同	同
	三、〇五五 二七、五	一、二〇〇
	七、九、五七〇 七、六、七	一、三三
	五、五、六九〇 五、三、〇、九〇	九、二四〇
	二、八四、二〇〇	二、四、八〇
	四ノ一(10)及(11) を減歩せしめ ざりしに依る	

二 換地を交付し清算を行はざりしもの

所有者	從前		換地	
	區町丁目	地番	區町丁目	地番
東京市	神田區 錦町三丁目	二九 宅地	神田區 錦町三丁目	二八ノ二 共同物 揚場
内務省	同	一六ノ一 地先 官有地	同	二八ノ三 官有地
合計		七〇・三		二〇・七
				二九・〇六
				四・七

三 換地を交付せず且清算金を交付せざりしもの

所有者	區町丁目	地番	地目	面積	摘要
神田區 通神保町	六ノ二	官有地		一四・六 ^坪	潰地充當用買收地

第七地區 甲 整地

第七地區 甲 整地

四三六

同 南 神 保 町	同 一ツ橋 通 町	同 錦 町 三 丁 目	同 小 川 町	同 神 田 區 錦 町 三 丁 目	計	同 神 田 區 表 猿 樂 町	同 通 神 保 町	同 南 神 保 町	同 今 川 小 路 一 丁 目	同 今 川 小 路 二 丁 自	同 一ツ橋 通 町	東 京 市
四ノ四	八ノ一 九合 併	一〇	三三ノ三	九 外二 筆	二二三ノ二	一ノ二 外五 筆	一ノ二 外三 筆	一ノ二 外一 筆	三ノ三 外一 筆	四ノ一	二七 外一 筆	
同 內務 省 用 地	同 官 有 地	同 內務 省 用 地	同 道 路	同	同	同	同	同	同	同	同	
七・〇 同	二二・五 同	三〇・〇 同	三六・三 同	一六・〇 道 路 敷	一四・三 道 路 敷	五三・七 同	一・七 〇・五 同	一・二 六・五 同	四・二 〇 同	八・七 同	九六・五 同	

同表神保町 一九ノ六
外二筆 同
同小川町 一九ノ六
外二筆 同
同表神保町 九ノ二
外二筆 同

東京市
同
一ツ橋通町
二七
外一筆
同
九六・吾同

合 計	同 小川町	一九ノ六筆	同	四七四・五同
	同 表神保町	九ノ二 外二筆	同	八四・〇同
				四、八四三・〇三
				五、三六九・七五

三 所有権以外の権利又は處分制限の指定を爲したるもの

- 一 既登記の所有権以外の権利の指定を爲したるもの地上権一件、地上権假登記一件、抵當權六件、賃借權一件、賃借權假登記三件あり。
- 二 處分制限の指定を爲したるもの華族世襲財産九件、所有權假登記三件、競賣申立一件、假處分一件あり。
- 三 未登記の所有権以外の権利の指定を爲したるもの賃借權九百十五件あり。

第二節 清算金

第一 土地補償金を以て徴收清算金に充當

本地區に於ける換地處分は、昭和四年七月十八日内務大臣の認可あり、而して清算金徴收額は三十萬七千二百四十圓五十錢にして人員三百九十七人なり、又土地補償金は同月二十三日補償審査會に於て八十九萬七千八百八圓五十錢人員七百六十六人と決定せられ、同月二十六日其の通知を受けたり、依て同年八月二十八日左記の通補償金を以て徴收清算金に充當處分を爲したり。

徵收清算金總額		補償金總額		補償金充當額		充當後徵收清算金		充當後交付補償金	
金	人員	金	人員	金	人員	金	人員	金	人員
三〇七、四〇・五〇 ^円	三九七	八九七、〇八・五〇 ^円	七六六	二三一、一六五・二〇 ^円	三九四	七六、〇七五・三〇 ^円	一〇五	六六五、九三・三〇 ^円	六六八

第二 換地處分に關する通知

前項充當處分を爲したる後、換地説明書及補償金清算金臺帳に依り換地處分に關する通知書を作成し、市内居住者に對しては人夫を使用して之を送達し、其の他に對しては書留郵便を以て之を送達せり。

人夫を使用して送達したるもの七百二通、内送達を了したるもの六百八通、現住所不明の爲持歸りたるもの九十四通なり、又書留郵便に附したるもの六十四通、内送達済のもの五十六通、現住所不明として返送せられたるもの八通、其の他官公署に對するもの四通にして結局送達を了したるもの計六百六十八通、送達不能なりしもの計百二通なり。

前記の如く多數送達不能となりたるは、轉居に依る現住所の異動又は權利者の變更ありたるも其の申告を怠りしに因るものにして、是等に對しては昭和四年九月四日より地主又は管理人若は借家人等に就き種々苦心の結果現住所を調査し、同月十八日迄に全部の送達を了したり。

第三 清算金の徵收

本地區に於ける徵收清算金總額は三十萬七千二百四十圓五十錢なりしが、内二十三萬千六百六十五圓二十錢に對し土地補償金を以て充當したる結果各納付義務者より直接徵收すべき清算金は差引七萬六千七百七十五圓三十錢にして人員百八人なり。

右徵收人員百八人中分納申請資格者即ち百圓以上納付すべきもの八十人なるも、内官公署分二件を除

き差引七十八人に對し分納申請期限を昭和四年九月十四日とし、同年八月二十八日附を以て換地處分に關する通知書と共に分納申請書用紙を送付し置きたる處、右期限内に申請書を提出したるもの五十六人にして、資格者總數に對し七割一分餘なりしも、尙同年九月十七日未提出者二十二人に對し、更に同月二十五日迄に提出方注意を促せし處、右期日迄に申請書を提出したるものなし。

十錢に對し土地補償金を以て充當したる結果各納付義務者より直接徴收すべき清算金は差引七萬六千七百七十五圓三十錢にして人員百八人なり。

右徴收人員百八人中分納申請資格者即ち百圓以上納付すべきもの八十人なるも、内官公署分二件を除

き差引七十八人に對し分納申請期限を昭和四年九月十四日とし、同年八月二十八日附を以て換地處分に關する通知書と共に分納申請書用紙を送付し置きたる處、右期限内に申請書を提出したるもの五十六人にして、資格者總數に對し七割一分餘なりしも、尙同年九月十七日未提出者二十二人に對し、更に同月二十五日迄に提出方注意を促せし處、右期日迄に申請書を提出したるものなし。

依て右申請書を審査の上同四年十月五日分納許可の決定を爲し、同日各申請者に對し許可書を送付せり。

今分納清算金に付其の内譯を示せば左表の如し。

回数區分	元	金	利	子	計	人	員	納	期	限
一		五、〇四二・五〇		一、一〇九・三六	五、〇四二・五〇	五	昭	四、	一〇、	三
二		三、九九九・一四		一、〇五一・五五	五、一四八・五〇	五	同	五、	四、	三〇
三		三、四七九・九六		一、〇五二・五二	四、五三二・五二	四	同	一〇、	三	三
四		三、一五〇・二六		九二二・四三	四、一六二・五九	四	同	六、	四、	三〇
五		三、〇一六・二五		七八二・四四	三、七九八・六九	三	同	一〇、	三	三
六		三、〇三三・四八		六六一・七六	三、六九五・二六	三	同	七、	四、	三〇
七		二、八四九・九二		五四二・二五	三、三六六・一七	二	同	一〇、	三	三
八		二、七四五・二四		四八八・二九	三、一七三・五三	二	同	八、	四、	三〇
九		二、六七一・五九		三八八・五〇	二、九〇〇・〇九	三	同	一〇、	三	三
一〇		二、五九四・七四		二二一・六四	二、八〇六・三六	二	同	九、	四、	三〇

第七地區 甲 整 地

計	二	三、二六・五〇	六、三三〇・一〇	四、一〇一・六〇	一	一〇、三
	二	二、六六・五三	一〇七・八五	二、八六・七〇	一九	同

本地區の清算金徴收事務は神田區役所に於て取扱ふものにして、昭和四年九月より之が徴收を開始せり。

第四 清算金の交付

本地區に於ける交付清算金總額は三十萬七千二百四十圓五十錢にして、昭和四年九月四日之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額三十萬六千六百七十二圓十錢なり。

而して前記交付済額中神田區役所に於て支拂を爲したるもの三十萬六千三百七十四圓六十錢、官廳の納入告知書に依り市會計課に於て納付したるもの二百九十七圓五十錢(天藏省分)なり。

第六章 土地補償金

第一 補償金の算定並決定

本地區に於ける宅地減歩率は一割五分七厘八三九三なりしを以て、特別都市計畫法第八條に依り補償金の交付を要する爲、同法第五條の規定に依る補償金の配當割合を定むるに當り、幹線街路敷充當用として國に於て買収したる土地に對しては該土地の指數相當額とし、其の他の土地に對しては補償總指數より前記指數を控除したる指數を、各整理前權利指數に按分するものとし、之を土地區劃整理委員會に諮問して決定せり。

次で前記配當割合に基き左表其の一に依り計算したる補償總指數を整理前各權利に配當して原案を作成の上、昭和四年七月十八日補償審査會に提出し、同月二十三日原案の通決定せられ、同月二十六日其の旨通知を受けたり。

而して要交付補償金總額は八十九萬七千八百八十八圓五十錢にして人員七百六十六人なり。

して國に於て買収したる土地に對しては該土地の指數相當額とし、其の他の土地に對しては補償指數より前記指數を控除したる指數を、各整理前權利指數に按分するものとし、之を土地區劃整理委員會に諮問して決定せり。

次で前記配當割合に基き左表其の一に依り計算したる補償總指數を整理前各權利に配當して原案を作成の上、昭和四年七月十八日補償審査會に提出し、同月二十三日原案の通決定せられ、同月二十六日其の旨通知を受けたり。
而して要交付補償金總額は八十九萬七千八百八十八圓五十錢にして人員七百六十六人なり。

補償金計算調書
(其の一)

摘	要	員	數
整理前宅地總面積	六二、二五四坪〇七		
整理後宅地總面積	五二、二四七坪九三		
潰地總面積	九、八二六坪一四		
整理前宅地總面積に對する潰地面積の割合	〇・一五七八三九三		
整理前宅地の一割に相當する面積	六、二二五坪四〇		
補償總面積	三、六〇〇坪七四		
整理前宅地總面積	二八、八二七、八一一個		
同上平均坪當指數	四六三個		
指數單價	〇圓七〇		
整理前宅地坪當價	三三四圓一〇		
補償總指數	一、六六七、一四二個		

第七地區 甲 整地

第七地區	甲整地	補償金總額	一、一六六、九九九圓四〇
			四四二

(其の二)

摘要	員數
特別都市計畫法施行令 第二十九條該當中指數 相當額配當のもの	三六六坪三五 一八七、九六〇個 一八七、九六〇個
面整理前指積	一三一、五七二圓〇〇
補償金總額	二八、六三九、八五一一個
差引整理前宅地總指數	一、四七九、一八二個
差引補償總指數	五一一個六四七六八
補償金配當率 (整理前指數千個當)	一三、四一一坪五四
特別都市計畫法施行令 第二十九條該當中按分 率に依り配當のもの	三、八二六、四四一個 一九七、六二七個
面整理前指積	一三八、三三八圓九〇
補償金總額	八九七、〇八八圓五〇
差引要交付補償金	

備考 一 指數單價七十錢は、昭和三年六月二十六日補償審査會に於て決定せるものなり。
二 特別都市計畫法施行令第二十九條該當地の面積は、土地臺帳又は官廳の臺帳面積を

掲上せり。

三 補償金配當率は、前表差引整理前宅地總指數(二八、六三九、八五一一個)を以て差引補償總指數(一、四七九、一八二個)を除したるものなり。
四 各筆の補償金(各所有權及借地權に對する補償金)は、前號の配當率に依り補償指數を

備考 一 指數單價七十錢は、昭和三年六月二十六日補償審査會に於て決定せるものなり。
 二 特別都市計畫法施行令第二十九條該當地の面積は、土地臺帳又は官廳の臺帳面積を

掲上せり。

- 三 補償金配當率は、前表差引整理前宅地總指數(二八、六三九、八五一個)を以て差引補償總指數(一、四七九、一八二個)を除したるものなり。
- 四 各筆の補償金(各所有權及借地權に對する補償金)は、前號の配當率に依り補償指數を求め、之に指數單價を乗じて算出せるものなり。

第二 補償金國市負擔區分

本地區に於ける補償金國市負擔區分に關する計算は左記調査表の如く、國に於て七十八萬四千五百六十四圓九十錢(人員七百四十一人)に於て十一萬二千五百二十三圓六十錢(人員二十五人)を負擔するものなり。

國市負擔區分調査表
(其の一)

補償	面積		國負擔	市負擔		備考	
	金額	指數		金額	指數	整理前面積 平均坪	國又は公 有地指數
三、六〇〇・七四 ^坪	一、六六七、二四二 ^圓	三、一〇六・八六 ^坪	一、四八四、七六六 ^圓	三九三・八八 ^坪	一八、三五六 ^圓	六二、二五四・〇七 ^坪	四六三 ^圓

(其の二)

第七地區 甲 整地

總計	市負擔		國負擔		區分		負擔		補積	種別		面積	償		施行令第二十九條該當地				差引交付	
	計	補助線の 内電氣事 業用地	計	幹 線	種	別	金	指		金額	指數		控除の 指數	金額	指數	金額	指數	金額	指數	
三、九〇〇・七四	三九三・八八	三九三・八八	三、二〇六・八六	三、二〇六・八六	一、四八四、七六	一、四八四、七六	一、四八四、七六	一、四八四、七六	一、四八四、七六	一、四八四、七六	一、四八四、七六	一、四八四、七六	一、四八四、七六	一、四八四、七六	一、四八四、七六	一、四八四、七六	一、四八四、七六	一、四八四、七六	一、四八四、七六	一、四八四、七六
一、一六、九九・四〇	一、一六、九九・四〇	一、一六、九九・四〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇
一、一六、九九・四〇	一、一六、九九・四〇	一、一六、九九・四〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇
一、一六、九九・四〇	一、一六、九九・四〇	一、一六、九九・四〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇
一、一六、九九・四〇	一、一六、九九・四〇	一、一六、九九・四〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇
一、一六、九九・四〇	一、一六、九九・四〇	一、一六、九九・四〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇
一、一六、九九・四〇	一、一六、九九・四〇	一、一六、九九・四〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇
一、一六、九九・四〇	一、一六、九九・四〇	一、一六、九九・四〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇	一、〇三九、三四・二〇

第三 補償金の申告

補償金の交付を受けむとする者は、昭和四年七月二十二日迄に之に關する申告書を提出すべき旨、申告書用紙を添へ権利者七百六十六人に對し注意書を發したるに、右期限内に出張所に提出したるもの七百五十二人なりしが、未提出者十四人に對しては本局に於て之を提出せしめたり。

總計	三、六〇、七四〇	一、一六、九八・四〇	二、三八、三八・九〇	一三、五三・〇〇	三、九〇、九〇・九〇	八九七、〇八・五〇
----	----------	------------	------------	----------	------------	-----------

第三 補償金の申告

補償金の交付を受けむとする者は、昭和四年七月二十二日迄に之に關する申告書を提出すべき旨、申告書用紙を添へ権利者七百六十六人に對し注意書を發したるに、右期限内に出張所に提出したるもの七百五十二人なりしが、未提出者十四人に對しては本局に於て之を提出せしめたり。

第四 各権利者に直接交付すべき補償金

要交付補償金總額は八十九萬七千八百八十八圓五十錢なりしが、内二十三萬千六百六十五圓二十錢を徵收清算金へ充當したる結果、各権利者に直接交付すべき補償金は六十六萬五千九百二十三圓三十錢(人員六百六十八人)にして、之が國市負擔區分に依る内譯左表の如し。

區分	補償金決定額		充當額		直接交付額	
	補償金額	人員	補償金額	人員	補償金額	人員
國負	六四、五四・九〇	七二	二〇五、〇八・〇〇	三七四	五九、五六・九〇	六四六
市負	二二、五三・六〇	二五	二六、一七・二〇	一八	八六、四六・四〇	二三
計	八七、〇八・五〇	九七	二三一、二五・二〇	三九二	一四六、〇三・三〇	六六九

第五 補償金の交付

本地區に於ける市負擔補償金總額十一萬二千五百二十三圓六十錢の内、徵收清算金に充當したる金額二萬六千七百七十錢は、市會計規程に基き振替手續に依り昭和四年九月二日支出し、直接交付額八萬六千四百十六圓四十錢は、神田區役所に於て同月三日之が支拂を開始し、同年十一月二日迄に全部其の支拂を了したり。

國負擔補償金總額七十八萬四千五百六十四圓九十錢の内徴收清算金に充當したる金額二十萬五千五十八圓は同四年九月十二日神田區役所に納付し、直接交付額五十七萬九千五百六圓九十錢は同年九月其の支拂を開始し、昭和六年三月迄に全部其の支拂を了したり。

第七章 登記及地價配賦

第一節 登記

第一 代位登記

土地に關し代位登記を爲したる件數は土地表示更正及變更八件、土地名義人表示更正及變更六件、土地分合筆五十四件、家督相續七件なり。

第二 區劃整理登記

土地囑託筆數は整理前百七十五筆、整理後二百七十五筆にして、建物囑託件數は要登記のもの四百七十八件、現存を認め難きもの二十四件なり、囑託書を東京區裁判所二長町出張所に提出したるは昭和四年九月四日にして、登記の完了は昭和四年九月三十日なり、而して登記の停止期間は換地處分告示の日即ち昭和四年七月十八日より約二月に亘れり。

第二節 地價配賦

第一 地價配賦前の處理

本地區の土地區劃整理施行申告、工事著手届及工事完了届を神田橋稅務署長に提出したる年月日左の如し。

一 土地區劃整理施行申告

昭和二年二月二十一日

一 工事著手届

同

日

第一 地價配賦前の處理

本地區の土地區劃整理施行申告、工事著手届及工事完了届を神田橋稅務署長に提出したる年月日左の如し。

- 一 土地區劃整理施行申告 昭和二年二月二十一日
- 一 工事著手届 同 日
- 一 工事完了届 同 四年七月十九日

第二 地價配賦

地價配賦案は昭和四年八月二十六日之が作成を了し八月二十九日神田橋稅務署長に提出し、昭和五年一月三十一日地價配賦許可の指令を受けたり。

本地區整理前有租地の地價總額は八十四萬千七百十五圓四十錢にして、整理に依り減少したる有租地面積に對する控除地價額は十五萬八千三百四十六圓五十五錢なり、之を前述の地價總額より控除したる六十八萬三千三百六十八圓八十五錢は即ち整理後有租地に對し配賦せらるべき地價總額とす、而して整理後各筆評定指數千個當配賦地價額は三十一圓十錢四三〇六なり。

地價配賦算定に關する數字を示せば左の如し。

一 整理前後有租地面積

整理前面積	整理後面積	差引減步面積
四八、五五、七五 ^坪	三九、四七、五 ^坪	九、一八、二九 ^坪

二 整理前有租地坪當平均地價

第七地區 甲 整地

合 計	公 共 用 地				國 有 免 租 地				市 有 免 租 地	區 有 免 租 地	民 有 免 租 地			
	計	物 共 揚 同 場	溝 運 渠 河 川	道 河 路	計	用 內 務 省 地	用 大 藏 省 地	敷 大 學 地 校	道 路	校 公 敷 立 地 學	計	敷 圖 書 地 館	校 私 敷 立 地 學	道 道 立 設 路
外 道 路 三 五 · 六 三	二 〇 · 七 八 · 六		一 · 二 三 六 · 八 五	一 四 · 九 三 · 一 〇	二 · 一 七 四 · 三 六	三 八 九 · 三 五	一 三 六 · 〇 〇	二 · 一 三 八 · 九 一	四 · 八 四 二 · 〇 三	二 · 〇 四 七 · 四 〇	四 · 〇 七 三 · 一 九	二 九 〇 · 五	一 · 七 八 · 四 九	二 · 〇 六 四 · 一 五
二 三 〇					二	五	一	五	四	二	六	一	三	二
九 · 三 六 · 四	三 九 · 八 七 · 四 〇	二 九 · 〇 六		三 五 · 二 四 七 · 六 三	九 · 六 八 · 二 五	二 〇 · 七	一 三 五 · 九 二	九 · 四 一 · 六 二		一 · 八 九 三 · 七	一 · 四 九 九 · 〇 六			
二 九 〇					九	一	二	六		一	二			
二 〇 · 三 四 五 · 五	二 〇 · 三 四 五 · 五	二 九 · 〇 六		二 〇 · 三 六 五										
一 九 · 一 四 · 七	一 · 二 三 六 · 八 五		一 · 二 三 六 · 八 五		二 · 一 四 六 · 一 〇	三 八 · 六 四	〇 · 〇 八	一 · 七 七 · 二 九	四 · 八 四 二 · 〇 二	一 五 三 · 六	二 · 五 四 · 一 三	二 九 〇 · 五	二 九 · 四 三	二 · 〇 六 四 · 一 五
一 三 五					二		一	一						
七 五					四	四			四	一	六	一	一	二

有 租 地	外 宅 道 路
四 七 · 三 三 · 八 七	四 七 · 三 三 · 八 七
三 五 · 六 三	三 五 · 六 三
一 四 五	一 四 五
三 九 · 四 七 · 六	三 九 · 四 七 · 六
二 七	二 七
八 · 二 六 · 九 三	八 · 二 六 · 九 三
三 三	三 三

乙 建物其の他の工作物移轉

第一章 整理前の建物

第一節 建物狀況

本地區整理前の宅地總面積は六萬二千二百五十四坪七勺にして、之に所在する建物の總棟數は千五百五十六棟此の延坪數四萬四千八百六十七坪七合三勺なり、而して建物一棟當り宅地面積は四十坪一勺、同建物延坪數は二十八坪八合四勺なり。

前記總棟數の内、移轉を要するもの千五百十五棟にして、爾餘の四十一棟は換地の關係に依り其の儘据置き得る不要移轉建物なり、之を構造別に示せば左の如し。

種別	建物總數		内		譯
	棟數	延坪數	要移轉建物棟數	延坪數	
木造建物	一、五〇	四一、六六、四	一、四八	四〇、六二、六	三
石造家建	五	三、五〇	五	三、五〇	一
同 階家建	二	三、七二	二	三、七二	一
煉瓦造家建	一〇	一四、二四	一〇	一四、二四	一
同 階家建	四	二五、空	四	二五、空	一
同 階家建	三	八、四	三	八、四	一
總計	一、五〇	四一、六六、四	一、四八	四〇、六二、六	三

鐵骨造二階建	一	四五、五〇	一	四五、五〇	一
鐵骨木造平家建	一	一四、八七	一	一四、八七	一
鐵骨煉瓦造四階建	一	一、七、三	一	一、七、三	一

同	同	二	二	二五・五	二	二五・五	一	一
三	階	建	二	八五・四	二	八五・四	一	一

鐵骨造	二階	建	一	四五・五〇	一	四五・五〇	一	一
鐵骨木造	平家	建	一	一四・八七	一	一四・八七	一	一
鐵骨煉瓦造	四階	建	一	一、七三・三二	一	一、七三・三二	一	一
鐵筋コンクリート造	平家	建	一	三・七五	一	三・七五	一	一
同	三階	建	四	三五・四	一	三五・四	三	三〇・九三
同	四階	建	一	一五・四〇	一	一五・四〇	一	一五・四〇
コンクリート造	平家	建	一	七・五〇	一	七・五〇	一	一
土藏造	二階	建	三	二二・〇〇	三	二二・〇〇	一	一
計			一、五六	四、八七・七三	一、五五	四、一六・二三	四	三、七〇・五二
建物總數に對する百分比			一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	九七・七七	九七・七四	二・三三	八・二六

要移轉建物の用途を大別すれば、住宅六百二十一棟の四割を最高とし、商店五百七十棟の三割七分之二に次ぎ、以下飲食店、工場、倉庫、學校等の順位なり、之を表示すれば左の如し。

種別	棟數	要移轉總棟數に對する百分比	轉建		一棟平均坪數
			延坪數	坪數	
官公署	二	〇・一三	二五・九二 ^坪	一二・六 ^坪	
圖書館	一	〇・〇七	一五・〇〇	一五・〇〇	一五・〇〇
學校	二五	一・六五	三、四九・八七	一三六・九	

第七地區 乙 建物其の他の工作物移轉

第七地區 乙 建物其の他の工作物移轉

倉	工	理	浴	質	武	席	觀	飲	商	下	旅	住	事	銀	醫	病	教	神
		髮			術		物	食		宿			務				會	
庫	場	店	場	屋	場	亭	場	店	店	業	館	宅	所	行	院	院	堂	社
四九	六	三	三	四	一	二	二	八	五〇	四	三	六二	九	四	二四	二	一	一
三・二三	四・五五	〇・八六	〇・二〇	〇・二六	〇・〇七	〇・一三	〇・二三	五・四一	三・七三	〇・二六	一・五三	四〇・九	〇・五九	〇・二六	一・五九	〇・一三	〇・〇七	〇・〇七
六九・一三	二・二二・二六	一七・七九	一三・一五	一〇四・三三	八三・二三	一八五・一七	三四六・八六	二、四八七・四九	一四、三三・五三	一七七・〇〇	一、二六四・一八	一四、〇八一・四四	五八・六九	一六三・二三	六九七・七一	六七・二五	六〇・〇〇	三・〇〇
一四・〇八	三・〇八	三三・三三	四四・一八	二六・〇八	八三・三三	九二・五九	一七三・四三	三〇・三三	二四・九	四四・二五	四四・六	三三・六	五九・八六	四〇・七九	二九・〇七	三三・六二	六〇・〇〇	三・〇〇

四五二

自動車々庫

計

一四、一四
五三

四、一六・三三
九・四七

三・一六
二七・一七

倉	工
庫	場
三・三	四・五
六九・三	二二・二六
一四・八	三・八

自動車々庫	三	〇・一〇	九九・四七	三・六
計	一、五五	100・00	四、四一・三	二七・七

第二節 地區告示後の建築

大正十三年三月二十七日東京都市計畫土地區劃整理施行地區の告示後に於て、假設建築物として新築、改築、増築等の爲、東京府知事に許可申請を爲したるもの建物五百十棟、内許可せられたるもの四百十四棟、許可せられざりしもの九十六棟なり、而して前記の如く不許可の指令を受けたるにも拘らず新築、改築、増築等を爲し、事業施行の必要上移轉を要したるもの四十一棟なり。

以上建物を新築、改築、増築等に區分し、尙不許可處分を爲したるものに對しては、其の原因を類別し各之を表示すべし。

假設建築物築造申請に對する種別調

區分	申請		許可		不許可	
	建物棟數	工作物件數	建物棟數	工作物件數	建物棟數	工作物件數
新築	二六〇	一	三六	一	三	一
改築	元	一	元	一	一〇	一
増築	三〇	一	一五	一	五	一
其他	一	一	一	一	一	一
計	五〇	一	四四	一	九	一

第七地區 乙 建物其の他の工作物移轉

不許可處分の原因調

區	分	建	物	棟	數	工	作	物	件	數
路 線	支									
換 地	支									
坪 敷	超				三					
路 線	支				三					
障 碍	坪				九					
障 碍	敷				一					
超	超				九					
過	過				一					
過	外				六					
計	外				六					

第二章 移轉計畫

本地區は之を四十六箇の移轉群に分ち、大正十四年七月より建物及工作物の現状調査に著手し、調査の移轉群より逐次移轉工法並工程を定め、昭和二年十一月全部の移轉計畫を終了せり。

要移轉建物千五百十五棟の内、一ツ橋通町一番所在東京商科大学校舎三棟は、第四十九號幹線街路敷に該當し、移轉を要し文部省と交渉したる處當時同大學は府下北多摩郡保谷村へ移轉すべく校舎新築中なりしを以て、協議の結果其の撤去は之を同校の移轉後迄保留することとなり、爾餘の千五百十二棟に對し移轉計畫をなせり。

而して要移轉建物千五百十二棟に對する移轉工法を見るに、曳方一部除却に依るもの九百八十棟にして六割四分を占め、之に次ぐは移築一部除却の二百六十九棟にして一割七分に相當し、他は曳方、移築据置一部除却、曳方一部移築一部除却、曳方一部移築の順位なり、之を構造別に示せば左の如し。

に該當し、移轉を要し文部省と交渉したる處當時同大學は府下北多摩郡保谷村へ移轉すべく校舍新築中なりしを以て、協議の結果其の撤去は之を同校の移轉後迄保留することとなり、爾餘の千五百十二棟に對し移轉計畫をなせり。

而して要移轉建物千五百十二棟に對する移轉工法を見るに、曳方一部除却に依るもの九百八十棟にして六割四分を占め、之に次ぐは移築一部除却の二百六十九棟にして一割七分に相當し、他は曳方、移築据置一部除却、曳方一部移築一部除却、曳方一部移築の順位なり、之を構造別に示せば左の如し。

種別	工法別棟數						計
	曳方一部移築	曳方一部除却	曳方一部移築一部除却	移築	移築一部除却	据置一部除却	
木造建物	一六	四	九六	三	二六	三	一、四八
石造平家建	二			二	一		五
同階建	二						二
煉瓦造平家建	三			四			七
同階建	二						二
同階建	二						二
鐵骨木造平家建	一						一
鐵骨造二階建	一						一
鐵筋コンクリート造平家建							一
同三階建							一
同コンクリート造平家建							一
土藏造二階建	三						三
計	一八三	四	九六	七	二六	三	二、四八

第七地區 乙 建物其の他の工作物移轉

第七地區 乙 建物其の他の工作物移轉

要移轉總棟數に對する百分比	二・〇四	〇・六	六・八	〇・四七	二・五	一七・九	二・〇五	100.00
---------------	------	-----	-----	------	-----	------	------	--------

要移轉建物千五百十二棟中、第一移轉群に屬する十二棟は錦橋架設の爲、之を一般計畫より分離し、大正十四年十二月より同十五年四月迄に移轉工事を実施することとし、爾餘の千五百棟の移轉實施期間を、昭和二年五月より同三年十月迄の一年六月とし、昭和二年に於て二百四十九棟、同三年に於ては十月迄に千二百五十一棟の工事を完了することに豫定したり、之を月別に示せば左の如し。

年	月												計	累計		
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月				
大正十四年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
大正十五年	一	三	四	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
昭和元年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
昭和二年	一	一	一	一	七	三	四	五	六	七	八	二	二	二	二	二
昭和三年	五	一〇	一八	二八	二五	一七	一〇	四	三	三	一	一	一	一	一	一
計	一五	二〇	二九	三九	三九	三〇	二〇	一五	一六	一五	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
累計	一五	三五	六四	九三	一三二	一六九	一八九	二〇四	二二〇	二三〇	二四〇	二五〇	二六〇	二七〇	二八〇	二九〇

前記計畫に依るときは要移轉建物千五百十二棟、此の延坪數四萬四百七十九坪七合二勺は、整理後に於て其の棟數に増減なきも、坪數に於ては一割八分四厘の縮少を來し、三萬三千二十六坪四合三勺となる、之を建物の構造別に對照すれば左の如し。

種別	整理前建物		整理後建物		差引	
	棟數	延坪數	棟數	延坪數	棟數	延坪數
木造建物	一、四八一	三、六三・三 ^坪	一、四八一	三、五八・〇 ^坪	一	七、四二・五 ^坪

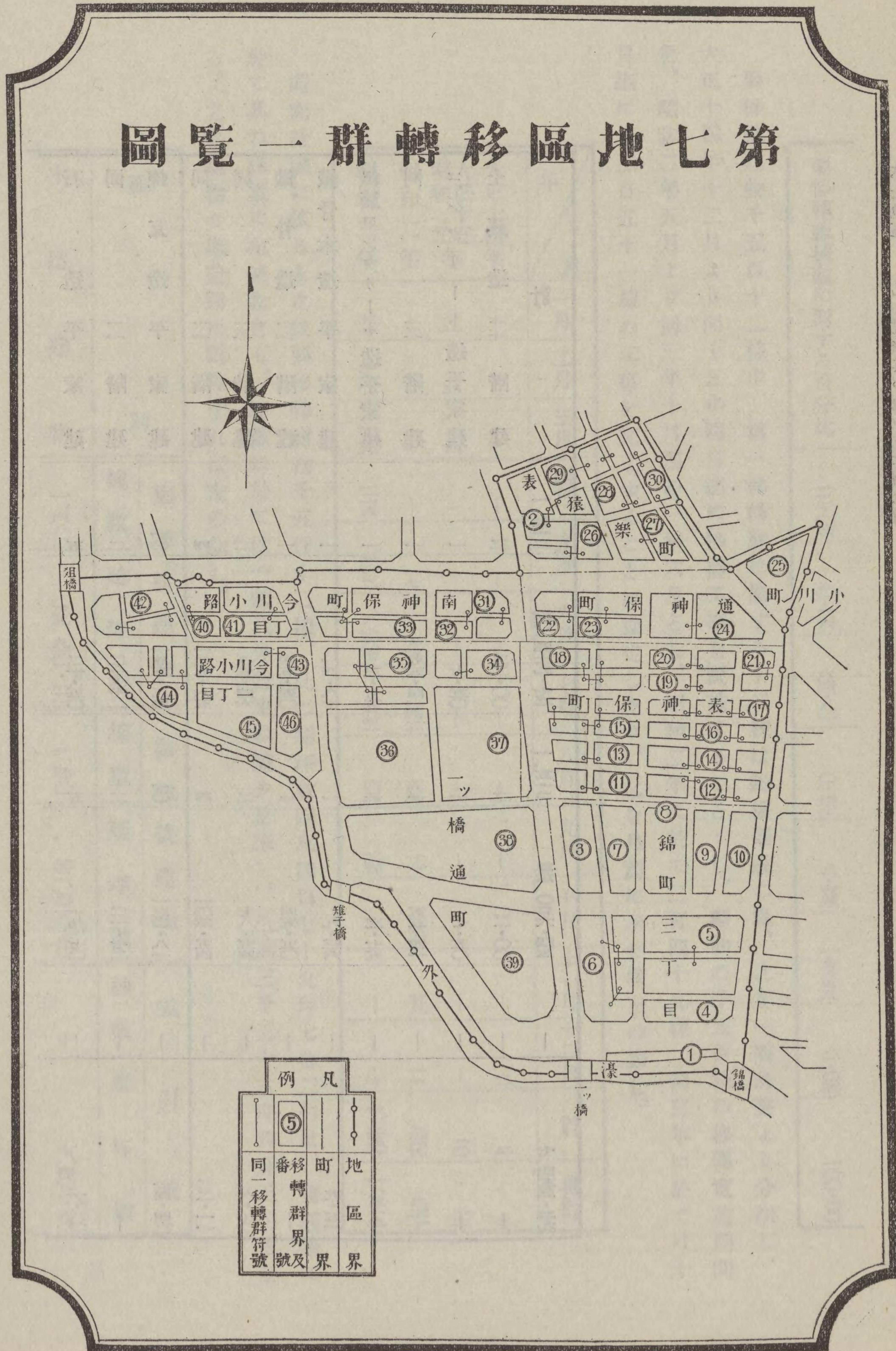
石造	同階	煉瓦造
五	二	一〇
二・五〇	二・七三	一四・四
五	二	一〇
一九・七〇	二・七三	一三〇・八
一	一	一
一・八〇	一	一四・四三

第七地區 乙 建築物其他の工作物移轉

石造平家建	五	二・五〇	一・八〇	二	二	一・八〇
同階建	二	二・七二	一・八〇	二	二	一・八〇
煉瓦造平家建	一〇	一五・二四	一〇・八一	一〇	一〇	一四・四三
同階建	四	二五・六五	一三・五五	四	四	二三・二
同階建	二	八五・四六	七・五	二	二	六・九
鐵骨造二階建	一	四五・五〇	四五・五〇	一	一	五・五
鐵骨木造平家建	一	一四・八七	九・三六	一	一	五・五
鐵筋コンクリート造平家建	一	三五	三五	一	一	五・五
同階建	一	五五・四一	五五・四一	一	一	五・五
コンクリート造平家建	一	七・五〇	七・五〇	一	一	五・五
土藏造二階建	三	二三・〇〇	二三・〇〇	三	三	五・五
計	二五	四、四七・七二	三、〇六・四三	二五	二五	七、四三・二九

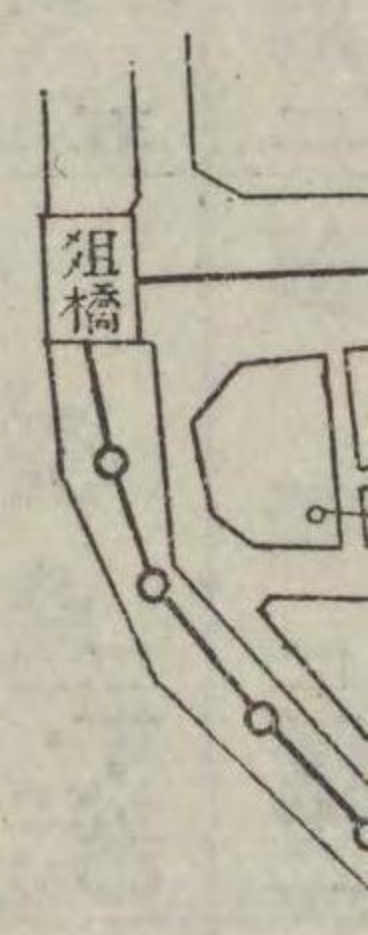
木造建築物	一、四八二	三、九三・三 ^坪	一、四八二	三、五八・六 ^坪	七、四三・五 ^坪
棟數	二五	一九・七〇	二五	一九・七〇	一・八〇
延坪數	二	二・七二	二	二・七二	一・八〇
棟數	一〇	一〇・八一	一〇	一〇・八一	一四・四三
延坪數	二	七・五	二	七・五	六・九
棟數	一	四五・五〇	一	四五・五〇	五・五
延坪數	一	五五・四一	一	五五・四一	五・五
棟數	一	七・五〇	一	七・五〇	五・五
延坪數	三	二三・〇〇	三	二三・〇〇	五・五
棟數	二五	四、四七・七二	二五	三、〇六・四三	七、四三・二九

第七地區轉移群一覽圖



第三章 移轉手續

第一節 移轉命令



第三章 移轉手續

第一節 移轉命令

補助線街路第八號中の錦橋架設の爲、特に換地面積の一部決定を爲し、大正十四年八月二十四日第一次移轉命令として、錦町三丁目の一部(錦町河岸第一移轉群建物十二棟並工作物に對し、移轉命令十四通同通知三通を發したり、而して一般計畫の建物に對する移轉命令は、昭和二年二月に至り之が發令を開始し、同月中に第二、第三移轉群建物二十五棟及工作物に對し、移轉命令二十五通、同通知三十通を發し、爾來引續き發令に努め同年十二月十二日表神保町の一部第十九乃至第二十一移轉群の發令を最後とし、前記第一移轉群の建物を含む要移轉建物千五百十二棟の内、協議移轉に依る十六棟を除きたる千四百九十六棟及工作物に對し、移轉命令千二十三通、同通知千七百四通を發し、茲に全部の發令を終へたり、之を月別に示せば左の如し。

年	月	命令棟數	命令通知數	命令通知通數
大正十四年	八月	三		三
自大正十四年	九月	一		一
至大正十五年	十二月	一		一
至昭和元年	一月	一		一
	二月	一		一
	三月	一		一
	四月	一		一
	五月	一		一
	六月	一		一
	七月	一		一
	八月	一		一
	九月	一		一
	十月	一		一
	十一月	一		一
	十二月	一		一
	合計	二五	二四	二〇

第七地區 乙 建物其の他の工作物移轉

合 計	昭和二年											
	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	計	合
	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	計	計
一、四九六	一三	一七	四	一六	一四	一九	五三	一	四	一、四〇三	一、〇三三	一、七四四

備考 本表中には移轉命令發令後に於て取消を爲したるものを含まず。

第二節 協議並直轄移轉

第一 協議移轉

本地區に於て協議移轉を爲したるもの建物十六棟、工作物九件あり、内建物十三棟は文部省の所管に係り、事業實施の便宜上協議移轉を爲したるものにして、其の他の民有に屬する建物三棟及工作物九件

は何れも移轉促進の爲、特に急施を要したるものなり。

第二 直轄移轉

本地區に於て直轄移轉をなしたるもの工作物二件あり、右は何れも文部省の所管に係り、其の希望に

本地區に於て協議移轉を爲したるもの建物十六棟、工作物九件あり、内建物十三棟は文部省の所管に係り、事業實施の便宜上協議移轉を爲したるものにして、其の他の民有に屬する建物三棟及工作物九件

は何れも移轉促進の爲、特に急施を要したるものなり。

第二 直轄移轉

本地區に於て直轄移轉をなしたるもの工作物二件あり、右は何れも文部省の所管に係り、其の希望に依り直轄施行を爲したるものなり。

第四章 損害補償

第一節 補償金の決定

移轉命令の發令に次で移轉損害補償金の算定に著手せり、乃ち早期移轉を要したる第一移轉群の十二棟は大正十四年九月、其の他の一般計畫に屬する建物に對しては昭和二年四月より、建物及工作物の新築費並動産の種類、數量及營業休止に因る損害等の現地調査に著手、其の調査に基き移轉損害補償金の算定を爲し、第一移轉群の十二棟は大正十四年十一月に、其の他の建物に對しては、昭和二年五月以降逐次補償審査會の審議決定を経たり、而して前記現地調査は同三年四月迄に終了し、又補償審査會に於ける補償金の決定も、回を重ねること三十八回(變更案の決定を含む)にして、同年五月一先終了したるが、其の後に至り尙既決補償金の變更を要するものあり、之が審議決定を爲すこと十六回に及び、同四年十月全部の決定を了せり、尙補償審査會の決定を要せざるものに付ては、調査算定すると共に關係者と協定する等夫々處理を了したり。

第七地區 乙 建物其の他の工作物移轉

補償審査會に於て決定したる補償金及其の他の移轉料總額は、左表の如く百九十九萬六千九百九十二圓八十九錢にして、内國負擔額三十八萬五千九百九十一圓九十一錢、市負擔額百六十萬五千六百圓九十八錢なり

建物棟數	延坪數	補償金	内					
			區分	金額	坪	當		
一、五三二	四〇、四七九・七二 ^坪	一、九〇、六三二・八九 ^円	建物移轉料	一、〇四一、三三八・〇三 ^円	二五・七 ^円			
			工作物移轉料	二三八、六七・元	五・八五			
			造作移轉料	四九、四六・三三	一・二三			
			動産移轉料	一三六、三三・二五	三・毛			
			休業補償	三四九、〇三・六八	八・六二			
			雜費	一七七、九三・四一	四・四〇			
			計	一、九〇、六三二・八九	四九・一八			

因に前表建物及工作物移轉料算定の基準となりたる新築費を示せば左の如し。

種別	棟數	延坪數	延一棟當坪數	新築費	坪當單價
木造建物	一、四八一	三九、九三・三三 ^坪	二八・九六 ^坪	二、九二、七五・五四 ^円	七・九二 ^円

種別	棟數	延坪數	延一棟當坪數	新築費	坪當單價
石造平家建	五	二・五〇	四・三〇	五、一九四・〇〇	二四一・五八
同 二階建	二	二・七二	一〇・八	六、七四・三六	三〇・九七
瓦造平家建	五	一四九・四	一四・五三	三、九四・四七	二九・九二

木	造	建	物	一、四八二	三九、九三・三 ^坪	二六・九六 ^坪	二、九二一、七五・五四 ^坪	七・九二 ^坪
---	---	---	---	-------	----------------------	--------------------	--------------------------	-------------------

石	造	平	家	建	五	二・五〇	四・三〇	五、一九四・〇〇	二四一・五八	
同	二	階	建	二	二・七三	一〇・八六	六、七五四・三六	三〇・九七		
煉瓦	造	平	家	建	一〇	一四・二四	一四・五三	三、九四一・四七	二九・九二	
同	二	階	建	四	二五・六五	三・四二	一四、二八二・七〇	一九三・二六		
同	三	階	建	二	八五・四六	四二・七三	一四、八八五・九〇	一七四・一九		
鐵骨	造	二	階	建	一	四五・五〇	四五・五〇	一、三六八・八四	二四九・二六	
鐵骨	木	造	平	家	建	一	一四・八七	一、三三八・三〇	九〇・〇〇	
鐵筋	コン	クリ	ート	造	平	家	建	一	三・七五	四五・九七
同	三	階	建	一	五五・四一	五五・四一	一、六九一・五一	二二一・〇〇		
同	一	階	建	一	七・五〇	七・五〇	一、七七一・六三	二二六・三三		
土	藏	造	二	階	建	三	七・三三	八、六七〇・八三	三九四・二三	
工	作	物			一	一	九五七、九六・一八	二二三・六七		
計					一五三	四〇、四九・七三	二六・七七	三、九八九、一六・三五	九八・五五	

備考 工作物の坪當單價は其の新築費を建物總延坪數にて除したるものなり。

第七地區 乙 建物其の他の工作物移轉

二 協議移轉に依る移轉料

棟 建
數 物

延
坪
數

移
轉
料

區
分
金

額
坪

譯
當

一六									
	六〇九・二 ^坪								
		二六、二六・三 ^坪							
			計	雜 費	休 業 補 償	動 產 移 轉 料	造 作 移 轉 料	工 作 物 移 轉 料	建 物 移 轉 料

三 直轄移轉工事費並其の補償金

工 作 物	區 分 件	數	補 償 金	工 事 費
		二	一	
				五七四・二五 ^坪

第七地區

乙

建物其の他の工作物移轉

第七地區

乙 建物其の他の工作物移轉

四 不許可建物の移轉料

四六六

棟數	延坪數	移轉料	區内		額坪	譯當
			分	金		
四		二、〇九二・二七 ^坪	建物移轉料 工作物移轉料 雜費	計	二六、八七・三 ^円 四、六三・三 二、八七・〇四	一三・八〇 ^円 二・二四 一・一四
		三、三六七・七一 ^円			三、三六七・七一	一七・八

五 豫告を受けざる占有者の移轉料

件數	移轉料	區内		額
		分	金	
三	二、四七七・七一 ^円	工作物移轉料 造作移轉料 動産移轉料 休業補償 雜費	計	三、〇〇・四三 ^円 一、三六・九三 四九・九五 一、三四・一四 一七六・二七
				二、四七七・七一

第二節 補償金の決定通知と其の交付

移轉損害補償金の決定通知は早期移轉を要したる第一移轉群の建物十二棟に對しては、大正十四年十一月之を了し、一般計畫に屬する建物に對しては、昭和二年五月之を開始し、爾來決定の都度通知を爲

第二節 補償金の決定通知と其の交付

移轉損害補償金の決定通知は早期移轉を要したる第一移轉群の建物十二棟に對しては、大正十四年十一月之を了し、一般計畫に屬する建物に對しては、昭和二年五月之を開始し、爾來決定の都度通知を爲し、同三年五月一先終了せるも、其の後に至り補償金の一部に變更を來したるものあり、之が變更通知は同四年十月に及びたり。

然るに前記通知書中、住所不明の爲返送せられたるもの多數あり、右は何れも住所異動に因るものなるを以て、是れ等に對しては極力其の移轉先を調査の上、判明したる者には夫々通知を爲し、全く所在不明なるものに付ては、昭和三年十月十三日本市公報に掲載し公示送達を爲せり。

補償審査會に於て決定したる補償金及協議其の他の方法に依りたる移轉料は、大正十四年十一月より之が交付を開始し、昭和六年三月末日迄に交付せし金額百九十九萬六千五百五十八圓六十八錢にして、内國負擔額三十八萬五千九百九十一圓九十一錢、市負擔額百六十萬五千五百五十八圓七十七錢なり。

而して昭和三年十一月即ち移轉工事完了迄に、要移轉建物の内抵當權の設定ありたるもの百八十九棟此の件數百八十一件あり、内一棟此の補償金七百二十圓十錢は、抵當權者の支拂同意を得ざる爲東京供託局に供託し、其の他は抵當權者の同意を得て支拂を了したり。

尙錦町三丁目十一番所在木造平家建一棟は、所有權移轉登記抹消請求訴訟の目的物なるに依り、之に對する移轉損害補償金千三圓五十八錢の供託方を、訴訟原告より請求ありたるを以て之亦供託したり。

第五章 移轉實施

第一節 實施狀況

本地區に於ける移轉工事は別表に示すが如く、錦橋架設の爲急速移轉を要したる建物十二棟は、大正十四年十二月より翌十五年四月迄に、其の他の建物千五百棟は、昭和二年五月より同二年十月迄に、完了する豫定にして、之が實施の概要を述べれば、前記特別扱を爲したる十二棟は、豫定の如く大正十五年四月迄に移轉を完了し、其の他の建物に對する移轉は、昭和二年に於ては豫定より遅れたるも、同三年に於ては順調の進捗を見たるを以て、最終工期たる昭和三年十月迄に工事完了の豫定なりし千五百棟の内、千四百七十二棟は豫定期間中に、殘餘の二十八棟は翌十一月に、尙建物以外の工作物も同時期迄に移轉を了したるも、當初移轉計畫より除外しありたる東京商科大學校舍三棟は、同大學の移轉先に於ける新校舍竣工せざるため其儘現存せり。

前記早期移轉を爲したる十二棟を除き、之が經過を年別に示せば左の如し。

昭和二年に於ける移轉

昭和二年五月より十二月に至る工事豫定棟數二百四十九棟に對し、工事完了せるもの百九十二棟此の進捗歩合七割七分一厘にして、殘餘の五十七棟は工事未了の儘翌年に繰越したり。

昭和三年に於ける移轉

昭和三年一月より十月に至る既定の工事豫定棟數千二百五十一棟、之に前年より繰越しに係る五十七棟を加へたる合計千三百八棟は、此の期に於て工事施行を要する棟數なり、内工事完了したるもの千二百八十棟此の進捗歩合九割七分八厘にして、殘餘の二十八棟は同年十一月に至り全部完了を告げたり。

今前掲移轉を了したる建物を、更に移轉手續別に分類するときは、命令に依りたるもの千四百九十六棟代執行を爲したるもの十棟を含む協議に依りたるもの十六棟なり。

移轉實施月別棟數表

(本表棟數は協議移轉及直轄移轉のものを含む)

棟を加へたる合計千三百八棟は、此の期に於て工事施行を要する棟数なり、内工事完了したるもの千二百八十棟此の進捗歩合九割七分八厘にして、残餘の二十八棟は同年十一月に至り全部完了を告げたり。

今前掲移轉を了したる建物を、更に移轉手續別に分類するときは、命令に依りたるもの千四百九十六棟代執行を爲したるもの十棟を含む協議に依りたるもの十六棟なり。

移轉實施月別棟數表 (本表棟數は協議移轉及直轄移轉のものを含む)

年	月	移轉命令		補償金決定		工事完了豫定		工事完了	
		月別	累計	月別	累計	月別	累計	月別	累計
大正十四年	八月	三	三						
	九月		三		三				
	十月		三		三				
	十一月		三		三				
	十二月		三		三				
	一月		三		三	一	三		
	二月		三		三	三	六		
	三月		三		三	四	一〇		
	四月		三		三	二	一二		
	五月		三		三	三	一五		
	六月		三		三	三	一八		
	七月		三		三	三	二一		
八月		三		三	三	二四			
大正十五年	八月		三		三				
	九月		三		三				
	十月		三		三				
	十一月		三		三				
	十二月		三		三				
	一月		三		三				
	二月		三		三				
	三月		三		三				
	四月		三		三				
	五月		三		三				
	六月		三		三				
	七月		三		三				
八月		三		三					

第七地區 乙 建物其の他の工作物移轉

昭和三年			
七	六	五	四
月	月	月	月
一、五二	一、五二	一、五二	一、五二
一	三五〇	二四	
一、五二	一、五二	一、二六	
一七	二五	二八	
一、三八	一、三三	八九	
二七	一七	二四	
一、〇五五	七六	五〇	

昭和二年																		
三	二	一	十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	十二	十一	十	九
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
			四		五	九	二〇	一七	四	一〇		三	五					
一、五一	一、五一	一、五一	一、五一	一、四六	一、四六	九	七〇	四三	三五	二六	一五	一五	七	三	三	三	三	
一八	三四	七	一九	六	七		二八	六	二四	三								
一、〇七	八	六七	五	五九	三	三四	三四	一八	一五	四	三	三	三	三	三	三	三	
一八	一六	五	二	五	四	六	五	四	三	七								
六二	四三	三三	二六	一五	一九	一四	一九	七	三	九	三	三	三	三	三	三	三	
二三	三	六	三	九	四	四	二〇	一	二	二								
四三	三三	一四	二四	一八	一〇	六	七	七	六	四	三	三	三	三	三	三	三	

第七地區
乙 建物其の他の工作物移轉

三二月	
一、五二	一、五二
二四	二四
一、〇七	八五
一六	一六
六二	四二
二三	三
四六	三三

昭和三年						
四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月
一、五二	一、五二	一、五二	一、五二	一、五二	一、五二	一、五三
二四	三五〇					
一、六一	一、五二	一、五二	一、五二	一、五二	一、五二	一、五三
二八	三五	一八	一〇	五	三	
八九	一、三	一、三八	一、四〇	一、四六	一、五〇	
一四	一七	二七	一九〇	一三	五	元
五九〇	七六	一、〇五	一、四四	一、三七	一、四三	一、四八

第二節 代執行

移轉命令を受け指定期限を經過し、現場係員より工事實施方に付屢次誘導督勵を爲すも、容易に其の義務を果さざる爲、戒告を爲したるもの建物二百十二棟、工作物一件ありたり。

戒告後尙其の義務を履行せざる爲、代執行を爲したるもの建物十棟、工作物一件あり、其の主なる原
因は借地權なく自ら移轉を躊躇するもの四人建物六棟、占有者との間に紛擾を醸し義務者自ら移轉し得
ざるもの二人建物二棟、自己の怠慢に依るもの一人建物二棟、工作物一件なり。
行政執行法に依り處分したるものを表示すれば左の如し。

第七地區 乙 建物其の他の工作物移轉 四七一

第七地區 乙 建物其他の工作物移轉

同表猿樂町二十四番	五	一	一	同二、七	同三、四	自昭和三、四 至同三、四	一	三	四・〇	八	一七・八	一	二〇〇	一
同	一	一	同二、七	同三、四	自昭和三、一八 至同三、一八	一	一	四	四・〇〇	一八	一八・〇〇	一	二〇〇	一
同猿樂町一丁目三番	一	一	同二、八	同三、三	自昭和三、九 至同三、九	一	一	四	四・九二	二八	二七・〇七	一	三・〇〇	一
同	一	一	同二、八	同三、三	自昭和三、九 至同三、九	一	一	四	四・九二	二八	二七・〇七	一	三・〇〇	一
同	一	一	同二、八	同三、三	自昭和三、九 至同三、九	一	一	四	四・九二	二八	二七・〇七	一	三・〇〇	一
同上ツ橋通町道路	一	一	同二、九	同三、二	自昭和三、二〇 至同三、二〇	一	一	一	八・三	七六	三・七五	一	三・〇〇	一
同	一	一	同二、九	同三、二	自昭和三、二〇 至同三、二〇	一	一	一	八・三	七六	三・七五	一	三・〇〇	一
同東紅梅町一番	一	一	同二、〇	同三、二	自昭和三、二〇 至同三、二〇	一	一	一	九・六六	二九	四・五〇	一	三・〇〇	一
同	一	一	同二、〇	同三、二	自昭和三、二〇 至同三、二〇	一	一	一	九・六六	二九	四・五〇	一	三・〇〇	一
同淡路町二丁目七番	一	一	同三、一	同三、二	自昭和三、二〇 至同三、二〇	一	一	一	二・〇〇	五〇	五・〇〇	一	三・〇〇	一
同	一	一	同三、一	同三、二	自昭和三、二〇 至同三、二〇	一	一	一	二・〇〇	五〇	五・〇〇	一	三・〇〇	一
同東紅梅町一番	一	一	同三、一	同三、二	自昭和三、二〇 至同三、二〇	一	一	一	六・八四	四三	三・四	一	三・〇〇	一
同	一	一	同三、一	同三、二	自昭和三、二〇 至同三、二〇	一	一	一	六・八四	四三	三・四	一	三・〇〇	一
同東紅梅町一番	一	一	同三、一	同三、二	自昭和三、二〇 至同三、二〇	一	一	一	四・八〇	二四	一九・六	一	三・〇〇	一
同	一	一	同三、一	同三、二	自昭和三、二〇 至同三、二〇	一	一	一	四・八〇	二四	一九・六	一	三・〇〇	一
同上ツ橋通町道路	一	一	同三、四	同三、八	自昭和三、八 至同三、八	一	一	一	一・六六	二三	七・六	一	四・七五	一
同	一	一	同三、四	同三、八	自昭和三、八 至同三、八	一	一	一	一・六六	二三	七・六	一	四・七五	一

計	同		上	
	同	上	同	上
(九九分)	八	一	昭和三、四	昭和三、二〇
	一	八	同 三、四	同 三、一〇
	一	一	自昭和 三、八	自昭和 三、六
	一	一	自昭和 三、五	自昭和 三、一〇
	一	一	一	一
	一	一	一	一
	一	一	一	一
	一	一	一	一
	一	一	一	一
	一	一	一	一

備考

- 一 棟數欄中「固」とあるは固定式にして其の他は移動式なり。
- 一 固定式住宅は六戸建なり。
- 一 固定式に對する本表の平均數は總て戸數を以て算出す。

第四節 宅地造成

本地區の地勢は、小川町に屬する小部分緩傾斜を爲す外一般に平坦なり、之が爲宅地造成工事は比較的平易にして且施行箇所少く、工事件數二十一件、施行箇所二十三箇所に過ぎず、而して工事種別は土留工最も多く九件全部大谷石積にして、其の他盛土工六件、切土工五件、假下水一件なり。

工事著手は昭和二年十月錦町三丁目十一番の盛土工事を最初とし、それより建物移轉の進捗に伴ひ順次各種工事を施行せり、而して施行箇所に建築材料或は種々なる殘材を置きたるものあり、工事上支障を來し之が除去に關し苦心を要したるも工事は逐次進捗し、昭和三年十一月南神保町七番の切土工事を最後とし、二十一件の工事を全部完了したり、之に因る宅地造成完了總面積は千九百三十四坪三合四勺なり、今其の工事狀況を見るに左の如し。

工事種別	内		譯	
	直	營	請	負
工事箇所	數量	金額	數量	金額
工事箇所	數量	金額	數量	金額

を來し之が除去に關し苦心を要したるも工事は逐次進捗し、昭和三年十一月南神保町七番の切土工事を
 最後とし、二十一件の工事を全部完了したり、之に因る宅地造成完了總面積は千九百三十四坪三合四勺
 なり、今其の工事状況を見るに左の如し。

工事種別	工事		數量	金額	請		數量	金額
	件數	箇所			件數	箇所		
假下水	一	一	六四・七〇 ^{間坪}	一九二・〇〇	一	一	六四・七〇 ^{間坪}	一九二・〇〇
土留工	九	九	五五・七七 ^{面坪}	一、二六・四〇	九	九	五五・七七 ^{面坪}	一、二六・四〇
盛土工	六	六	三六・九〇 ^{立坪}	一、二六・四〇	四	四	二九・七三 ^{立坪}	一四九・〇〇
切土工	五	七	六九・八三 ^{立坪}	二六七・二〇	一	三	一九・七三 ^{立坪}	一四九・〇〇
計	二	三	一	八六・七四	一五	一七	五〇・七六 ^{立坪}	七七・四〇
				二、四四・三四				二、四四・八〇

第七地區

乙 建物其の他の工作物移轉

四七五

一工事、道路後修の順序なり、之等の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事一覽

種別	市水道局		市土木局		市電氣局		株式會社燈		株式會社瓦斯		電話		計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
集一地區 計	管線路 一、九一〇・七	電柱 二、四〇一・一〇												
應急 計	管線路 九四・三	電柱 一、六二二・四												
其他 計	管線路 二五九・四五	電柱 一、六三二・二												
假 計	管線路 六四・七	電柱 二、五八・四八												
整理 計	管線路 一、七五五・三六	電柱 二、八八・四八												
私有 計	管線路 六五・件	電柱 二、〇五・九五												
道路 後修														
合 計	一、七五五・件	二、五八・四八	三、五八・四八	二、〇五・九五	二、八八・四八	二、五八・四八	二、〇五・九五	二、八八・四八	二、五八・四八	二、〇五・九五	二、八八・四八	二、五八・四八	二、〇五・九五	二、八八・四八

第七地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第七地區 丙 地下埋設物其他工作物整理
備考 一 數量欄中には附帯工事數量を掲げざるも金額は合算せり。
二 事業者別合計欄數量には道路後修の數量を含まず。

年度別工事進捗状況

種別	大正十四年		大正十五年		昭和二年		昭和三年		昭和四年		昭和五年		計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
集一地區計					一七五	一、一五、八〇	九六	三、六二、二二	五三	八七、四三	二	三、〇〇	一六八	五、七六〇、三四
電柱					一七五	一、一五、八〇	九六	三、六二、二二	五三	八七、四三	二	三、〇〇	一六八	五、七六〇、三四
管線路					一七五	八九〇、六七三、五九九、八	九六	一七、一七八、三三三、二八〇、六	五三	一〇、八五六、三七二、二三八、六	二	六、三三三、八〇九、二〇六、五	一六八	三五、一六〇、八六
應急					一本	二、〇四、六〇	九本	一〇、八七〇、四	五	二、七五、六	一	六、二六、八〇	一〇	四〇、九二、三〇
管線路					九四	二九八、三〇	九本	一、六五六、八八	五	八二、五四			一〇	一、九五、一八
其他					五	一、六六二、四二	二七	四三三、六三					三	一、八三三、四三
整理						二、九七、九三	二七	二、七九、九六					三	四、二四九、四
假本						二、九七、九三	二七	二、七九、九六					三	四、二四九、四
管線路						二、九七、九三	二七	二、七九、九六					三	四、二四九、四
其他						二、九七、九三	二七	二、七九、九六					三	四、二四九、四
計						二、九七、九三	二七	二、七九、九六					三	四、二四九、四
私有管線	九件	一九〇、五三	三〇件	三、七七一、六	六五〇件	一、二、三三八、〇七	七三二件	七三、五八一、一五	六七三件	一、四三七、六一		二、四二、一一	五、三九〇件	九、七七八、九七
道路後修					三件	一八九、四二	二〇六件	三、〇八六、〇〇	二六件	一、〇三五、八七		二、四二、一一	二六三件	四、三〇一、二八
合計		一、二〇、五三		五、七七一、六		一、二、三三八、〇七		七三、五八一、一五		一、四三七、六一		二、四二、一一		九、七七八、九七
進捗歩合%		一〇		一〇		一〇		一〇		一〇		一〇		一〇

國市負擔區分

種別	水道	下水	電	市電	東電	瓦斯	電話	計
數量								
金額								

國市負擔區分

種別	一地區集計						一應急工事						假本整理						事業者拂						線私管						種別							
	國負擔		市負擔		計		國負擔		市負擔		計		國負擔		市負擔		計		國負擔		市負擔		計		國負擔		市負擔		計			國負擔		市負擔		計		
	市	國	市	國	市	國	市	國	市	國	市	國	市	國	市	國	市	國	市	國	市	國	市	國	市	國	市	國	市	國		市	國	市	國	市	國	
水道	四、六七・三五		九、九八・七五		一四、〇六一・一〇																																	
下水																																						
市電	二、五八・五七		四、七九・四		七、〇八〇・三																																	
東電	一、三四・三		二、八五・五〇		四、二〇・七																																	
瓦斯	四、八九・六		一〇、二四・七		一五、〇六一・三																																	
電話																																						
計	一三、〇九四・七		二七、八六・四		四四、九三・一〇																																	

第七地區

丙 地下埋設物其他工作物整理

四七九

第七地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

四八〇

道 路 後 修	市 負 擔	
	國 負 擔	市 負 擔
道 路 後 修	二、〇二五・九四	—
合 計	三、〇四一・三三	—
市 負 擔	—	一、六六二・四二
計	二、二〇八・八一	—
支 拂 未 濟	—	—
計	—	—

年度別工事費支拂進捗状況

種 別	昭 和 二 年	昭 和 三 年	昭 和 四 年	昭 和 五 年	支 拂 未 濟	計
一 地 區 集 計	—	一四、九三三・一六	二二、九七六・九〇	一三、〇〇一・一四	—	四〇、九二二・二〇
應 急 整 理 一 工 事	—	一、九三三・三三	二、二六六・一三	五九・六九	—	四、二四九・四五
假 本 整 理	—	—	六、六〇四・九五	一、〇〇七・五二	—	九、四三四・五四
私 有 管 線	三、五二七	四七、〇四九・〇四	四八、〇八三・三三	三、四〇三・三〇	二、〇八・〇三	九、七八・九七
道 路 後 修	—	八四〇・三七	二、六〇七・〇二	六・二五	八四七・六四	四、三〇一・二八
計	三、五二七	四八、八六六・〇〇	五三、四六六・三三	一七、四七三・九〇	二、八七三・六八	一五七、六六五・四四
進 捗 歩 合 %	—	四一	四六	一一	—	一〇〇

第二章 本枝管線處理

第一節 應急整理一地區集計

第二章 本枝管線處理

第一節 應急整理一地區集計

本地區に於ける當初契約數量は電柱百三十九本、管線路八千七百九十五間及之に關係せる各種工作物にして此の整理費四萬四千八百二十九圓五十八錢なり、而して假契約は水道工作物に關し昭和元年十二月二十八日締結したるを、工事は同工作物に關し同三年二月五日著手したるを、本契約は東電工作物に關し同年四月六日締結したるを各々最初とし、それより逐次各事業者と契約を締結し工事を施行したり、而して工事施行に際し困難を爲したるは表神保町地内に於ける電柱整理工事と一ツ橋通に於ける十吋瓦斯高壓鐵管整理工事なり、前者は道路の一方に移動したるもの多く該道路の兩側に於ける建物移轉一致せざりし爲道路の有効幅員を狭少ならしめ道路に輻輳せる遞信省、市電、東電關係各種工作物を順次移設を爲すこと能はざりし爲多くの假設工事を爲す等複雑なる工事を施行せざれば整理を爲すこと能はず其の取扱に尠からず苦心を要したり、亦後者は十吋高壓瓦斯鐵管なりし爲瓦斯の輸送を一時中斷し工事を施行せるも、管内に瓦斯の残留せるもの多く作業中工夫等に中毒を爲せるものあり短時間づつ交代作業を爲すの已むなきに至りたと、該鐵管は高壓鐵管なりし爲其上覆深く之が整理に尠からず困難を爲したり、各事業者別契約並工事狀況を示せば左の如し。

事業者	假契約年月日	本契約年月日	工事著手年月日	工事竣功年月日
市水道局	昭和元、三、元	昭和三、四、二〇	昭和三、二、五	昭和五、二、一

第七地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

市電氣局	昭和三年	昭和三年	昭和三年	昭和三年	昭和三年	昭和三年	昭和三年
東京電燈株式會社	昭和二年	昭和二年	昭和二年	昭和二年	昭和二年	昭和二年	昭和二年
東京瓦斯株式會社	昭和二年	昭和二年	昭和二年	昭和二年	昭和二年	昭和二年	昭和二年

工事施行中設計變更を要したる箇所四十五件ありたる結果整理數量に於て増加したるも工事費に於ては三千九百八圓三十八錢の減額を爲せり、其の設計變更狀況を示せば左の如し。

種別	電		柱		管		線		計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
當初契約	二〇本	六、四二・八五	八、七五・〇	三、五六・七三	四、八九・五	四、八九・五	四、八九・五	四、八九・五	四、八九・五
設計變更後(精算)	一六	五、七〇・三	九、〇六・五	三、一〇・八六	四、〇九・二〇	四、〇九・二〇	四、〇九・二〇	四、〇九・二〇	四、〇九・二〇
差引増△減	元	△	四二・五	△	四一・五	△	△	△	△

尙工事竝支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年度	電		柱		管		線		計	歩合%
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
昭和二年	二七本	一、一五・八〇	一七・五	八九〇・六七	二、〇四六・四七	二、〇四六・四七	二、〇四六・四七	二、〇四六・四七	五	五
昭和三年	六	三、六九・二二	三、五九・八	一七、一六・二三	二〇、八七・二四	二〇、八七・二四	二〇、八七・二四	二〇、八七・二四	五	五

昭和四年	昭和五年	計
三、一六〇・六	二、二八・六	五、四四七・二
一〇、八五・七	六、二五・八〇	一七、一一一・五
二、七五・六	六、二六八・八〇	九、〇二四・四
一元	一五	一〇〇

昭和二年	一七、五〇〇	二、〇四六・四七	五
昭和三年	一、五五・八〇	二、七五	五
昭和四年	三、六九・二三	三、五九八	五
昭和五年	三、六九・二三	三、五九八	五
計	一七、二六・二三	二〇、八七〇・二四	五

昭和四年	五	八九、四二	三、二八〇・六	一〇、八五・七	一一、七五・六九	元
昭和五年	二	三、〇〇	二、三六・六	六、三五・八〇	六、二六・八〇	一五
計	一六	五、七六〇・四	九、二〇六・五	三三、一六〇・八六	四〇、九二二・〇〇	一〇〇

支拂状況

年度	國負擔	市負擔	計	歩合%
昭和三年	四、七八・八一	一〇、一六・三五	一四、九三・一六	三六
昭和四年	四、二五・二六	八、八四・二九	一三、〇九・五五	三三
昭和五年	四、一〇・三六	八、八四・二九	一三、〇〇・六五	三三
計	一三、〇四・四三	二七、八六・三三	四〇、九二二・〇〇	一〇〇

第一水道

一 契約 大正十五年十二月二十八日管線路千七百八十間及關係工作物に對し整理費一萬五千七百三十圓五十錢を以て整理に關する假契約を爲し更に昭和三年四月二十日之が本契約を締結したり、右整理費の國市負擔區分は國五千三十三圓七十六錢、市一萬六千九百九十六圓七十四錢なり。

二 工事 大正十五年十二月二十八日假契約成立せるを以て昭和二年七月十九日最初の工事要求を爲し、翌三年二月五日工事に著手しそれより各種工事を逐次施行したり、然るに施行の結果新設千五百九十二間三、撤去六十七間四、埋殺二百五十一間計千九百十間七となり、管線路に於て百三十間七の

第七地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

増加を爲したり、而して昭和五年二月一日を以て總工事を完了し同月二十日竣功検査を了したり、其の工事進捗狀況を示せば左の如し。

年 度	管 線		路 額	歩 合 %
	數	量		
昭 和 二 年	一七・五	八九〇・七		六
昭 和 三 年	一、四八・三	一〇、九四・三		五
昭 和 四 年	三五・〇	二、七五・八		九
計	一、九〇・七	一四、九〇一・一〇		一〇〇

三 精 算 本地區に於ける契約金額一萬五千七百三十圓五十錢、内國負擔五千三十三圓七十六錢、市負擔一萬六千九百九十六圓七十四錢にして、第一回前渡金は昭和三年六月十五日、第二回前渡金は同四年十月十四日支拂手續を爲し同五年六月二十六日精算を完了したり。

設計變更の結果精算金額一萬四千六百一圓十錢となり契約金額に比し千二百二十九圓四十錢の減額を見たり、之を工種別に見るに新設千五百二十七間四金額一萬三千三十三圓九十六錢、移設六十四間九金額千二百五十五圓五十八錢、其他金額三百一十一圓五十六錢にして國市負擔區分は國四千六百七十二圓三十五錢、市九千九百二十八圓七十五錢なり、其の精算狀況を示せば左の如し。

負擔別對照表

負擔區分	潰地面積	比率%	契約金額	精算金額	差引増△減

負擔別對照表

負擔區分	潰地面積	比率%	契約金額	精算金額	差引増△減
國負擔 幹線街路費	三、七六・三 ^坪	三三	五、〇三三・六 ^円	四、六七二・三五 ^円	△ 三六二・四一 ^円
補助線街路費	三、七〇七・九	三三	四、八七六・四五	四、五二六・四四	△ 三五〇・一一
市負擔 土地整理費	四、三六九・八五	三七	五、八〇〇・二九	五、四〇二・四一	△ 四二七・八八
計	八、〇〇六・〇四	六六	一〇、六九六・〇四	九、九三八・七五	△ 七六七・九九
合計	一一、八八八・九七	一〇〇	一五、七三〇・五〇	一四、六〇一・一〇	△ 一、一三九・四〇

補償金對照表

工種	契約金額	精算金額	差引増△減
既設工作物と整理工作物と一致せる部分	五、〇三三・四七 ^円	五、四七七・六一 ^円	△ 四四四・一四 ^円
過不足分(一致せざる部分)	九、八四三・七六	八、八二一・九三	△ 一、〇三二・八三
累計する分	一四、〇〇一	一四、二九九	△ 二四八・八四
小計	一五、一〇一・二四	一四、四八八・七五	△ 六六二・五三
附帯工事分(假工事を含む)	六九二・三六	一一三・三九	△ 五七八・八七
補償額計	一五、七九三・六〇	一四、六〇二・一四	△ 一、一九一・四六

第七地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第二電氣

(イ) 市電

一 契約 昭和三年二月十九日電柱八十八本、地中線千七百十間及關係工作物に對し整理費七千九百九十三圓二十一錢を以て整理に關する假契約を爲し更に同年五月二十一日之が本契約を締結したり、右整理費の國市負擔區分は國二千三百一圓八十三錢、市四千八百九十一圓三十八錢なり。

二 工事 昭和三年二月二十九日假契約成立せるを以て同日最初の工事要求を爲し、翌三月五日工事に著手しそれより各種工事を逐次施行したり、然るに施行中三十二件の設計變更を爲したる結果電柱新設六十五本、撤去五十二本計百十七本、地中線新設五百九十三間五、撤去八百九十三間二計千四百八十六間七となり、電柱に於て二十九本増加し地中線に於ては二百二十三間三減少を爲したり、而して昭和五年五月七日を以て總工事を完了し同年六月十四日竣功検査を了したり、其の工事進捗狀況を示せば左の如し。

年 度	電 柱		地 中 線		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
昭 和 二 年	二本	三三・〇〇	一 間	一	三三・〇〇	一
昭 和 三 年	六〇	九九五・八九	五九一・六	二、〇三六・四五	三、〇三二・三四	四三
昭 和 四 年	五三	八九・四二	五〇〇・八	一、七四・三四	二、六三三・七六	三七
昭 和 五 年	二	三三・〇〇	三九四・三	一、三五・九三	一、三八八・九三	一九
計	二七	一、四二一・三三	一、四八六・七	五、二一六・七	七、〇三八・〇三	一〇〇

三 精 算 本地區に於ける契約金額七千九百九十三圓二十一錢内國負擔二千三百一圓八十三錢、市負擔四千八百九十一圓三十八錢にして、前渡金は昭和三年六月十九日支拂手續を爲し、同五年八月十八日精算を了したり。

設計變更の結果精算金額七千五百八十八圓三錢となり契約金額に比し百三十五圓十八錢の減額を見たり、

昭和五年	二	三三・〇〇	三九四・三	一、三五五・九三	一、三六八・九五	一九
計	二七	一、四一・三	一、四六・七	五、二六・七	七、〇六・〇三	一〇〇

三 精算 本地區に於ける契約金額七千九百九十三圓二十一錢内國負擔二千三百一圓八十三錢、市負擔四千八百九十一圓三十八錢にして、前渡金は昭和三年六月十九日支拂手續を爲し、同五年八月十八日精算を了したり。

設計變更の結果精算金額七千五十八圓三錢となり契約金額に比し百三十五圓十八錢の減額を見たり、之を工種別に見るに新設電柱十三本、地中線六間七金額千五十五圓六十四錢、移設電柱五十二本、地中線五百八十六間八金額六千二圓三十九錢にして國市負擔區分は國二千二百五十八圓五十七錢、市四千七百九十九圓四十六錢なり、其の精算狀況を示せば左の如し。

負擔別對照表

負擔區分	潰地面積	比率%	契約金額	精算金額	差引増△減
國負擔 幹線街路費	三、七三・三 _坪	三	二、三〇・八 _円	二、五八・五 _円	△ 四三・六 _円
補助線街路費	三、七〇・九	三	二、三九・九	二、八七・九	△ 四一・〇
市負擔 土地整理費	四、三九・五	七	二、六・九	二、六一・四	△ 五〇・二
計	八、〇〇・四	六	四、八九・三	四、七九・四	△ 九〇・二
合計	一二、八八・七	一〇〇	七、九三・三	七、〇五・三	△ 一三五・八

補償金對照表

工種	契約金額	精算金額	差引増△減
既設工作物と整理工作物と一致せる部分	六、三〇・九 _円	六、〇〇・九 _円	△ 二七・八〇

第七地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第七地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

四八八

過不足分(一致せざる部分)	六〇・四九	一、〇五五・四四	四三三・一五
小計	六、八五〇・六六	七、〇六六・〇三	二〇七・三五
附帶工事分(假工事を含む)	三、四二・三五	—	三、四二・三五
補償額計	七、一七三・〇一	七、〇六六・〇三	一〇六・九八

(ロ) 東 電

一 契約 昭和二年八月十六日電柱五十一本、地中線百十間及關係工作物に對し整理費五千六百五十三圓九十三錢を以て整理に關する假契約を爲し、更に翌三年四月六日之が本契約を締結したり、右整理費の國市負擔區分は國千八百九圓二十六錢、市三千八百四十四圓六十七錢なり。

二 工事 昭和二年八月十六日假契約成立せるを以て同日最初の工事要求を爲し、同月二十日工事に著手しそれより各種工事を逐次施行したり、然るに施行中六件の設計變更を爲したる結果電柱新設二十五本、撤去二十六本計五十一本、地中線新設四間、撤去百十三間計百十七間となり地中線に於て七間の増加を爲したり、而して昭和三年十一月二十一日總工事を完了し同五年二月四日竣功検査を了したり、其の工事進捗狀況を示せば左の如し。

年 度	電 柱		地 中 線		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
昭 和 二 年	一五本	一、二三・八〇	—	—	一、二三・八〇	七〇
昭 和 三 年	三六	二、六六・二三	二七〇	三、八一・七〇	三、〇七七・九三	七三
計	五一	三、八九・〇三	二七〇	三、八一・七〇	四、一〇〇・七三	一〇〇

三 精 算 本地區に於ける契約金額五千六百五十三圓九十三錢内國負擔千八百九圓二十六錢、市負擔三千八百四十四圓六十七錢にして、前渡金は昭和三年六月十五日支拂手續を爲し、同五年三月十四日精算を完了したり。

設計變更の結果精算金額四千二百圓七十三錢となり契約金額に比し千四百五十三圓二十錢の減額を見

昭和三年	三	二、六九二・三	二七・〇	三、〇七・五	三〇七・五	七
計	五	三、八二二・〇	二七・〇	三、八二二・〇	三、八二二・〇	七

三 精 算 本地區に於ける契約金額五千六百五十三圓九十三錢内國負擔千八百九圓二十六錢、市負擔三千八百四十四圓六十七錢にして、前渡金は昭和三年六月十五日支拂手續を爲し、同五年三月十四日精算を完了したり。

設計變更の結果精算金額四千二百圓七十三錢となり契約金額に比し千四百五十三圓二十錢の減額を見たり、之を工種別に見るに移設電柱二十三本、地中線四間金額三千四百五十二圓三錢、撤去電柱一本、地中線百九間金額三百五十五圓五十五錢、その他金額三百九十三圓十五錢にして國市負擔區分は國千三百四十四圓二十三錢、市二千八百五十六圓五十錢なり、其の精算狀況を示せば左の如し。

負擔別對照表

負擔區分	潰地面積	比率%	契約金額	精算金額	差引増△減
國負擔 幹線街路費	三、七六・三 ^坪	三	一、八〇九・六	一、三四四・三	△ 四六五・〇三
補助線街路費	三、七〇・七	三	一、七五二・七	一、五〇一・三	△ 四五〇・四九
市負擔 土地整理費	四、三九・八五	七	二、〇九一・五	一、五四二・七	△ 五三七・六八
合 計	八、〇八〇・四	六	三、八四一・六	二、八五六・〇	△ 九八八・二七
合 計	二、八八・九七	一〇〇	五、六五三・九三	四、二〇〇・七 ^坪	△ 一、四五三・二〇

補償金對照表

工 種	契約金額	精算金額	差引増△減
既設工作物と整理工作物と一致せる部分	四、八四四・六	三、四五二・〇	△ 一、三六二・〇

第七地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第七地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

四九〇

過不足分(一致せざる部分)	小計	
	附帶工事分(假工事を含む)	補償額計
三五・四七	五、七三・五五	四、二〇〇・七三
△	△	△
二九三	一、三六四・九六	一、四三三・二〇
三、八〇七・七〇	三、九三・一六	
△	△	
八八・二四		
五、六三三・九三		

第三 瓦 斯

一 契約 昭和二年四月四日管線路五千九百九十五間及關係工作物に對し整理費一萬六千二百五十一圓九十四錢を以て整理に關する假契約を爲し更に同三年五月十七日之が本契約を締結したり、右整理費の國市負擔區分は國五千二百圓六十二錢、市一萬五千五十一圓三十二錢なり。

二 工事 昭和二年四月四日假契約成立せるを以て同日最初の工事要求を爲し、翌三年五月三十一日工事に著手しそれより各種工事を逐次施行したり、然るに施行中七件の設計變更を爲したる結果新設二千二百二十八件九、撤去五百三間二、埋殺二千九百六十間となり、管線路に於て四百五十七間一の増加を爲したり、而して昭和五年四月十五日を以て總工事を完了し同年五月二十五日竣功検査を了したり、其の工事進捗狀況を示せば左の如し。

年 度	管 線		路 額	歩 合 %
	數	量		
昭和三年		一、四三三・〇 _間	三、七六五・三四 _円	二五
昭和四年		二、四四四・八	六、四六二・三三	四三

昭 和 五 年	計	昭 和 五 年	計
一、八四四・三	五、九六二・一	四、八七九・八七	一四、〇六一・四四
三二	一〇〇		